

交通Bulletin

2007年 春季号, No.14

発行日：平成19年4月1日
 発行：日本大学理工学部
 社会交通工学科教室
 ☎ 047-469-5239（教室事務）
 発行責任者：天野光一（教室主任）
 編集担当：伊東 孝・岸上明子・伊東英幸
 制作：株式会社 テイクアイ

DEPARTMENT OF TRANSPORTATION ENGINEERING AND SOCIO-TECHNOLOGY・COLLEGE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY・NIHON UNIVERSITY

■ CONTENTS ■

巻頭言：下辺 悟	1	助成研究・委託研究	31
退職にあたって：星埜正明	2	受賞	32
平成19年度 研究室紹介	3	平成18年度 学生の活動（2006.1.1～2007.3.31）	32
平成18年度 博士論文・修士論文・卒業研究	13	平成18年度 行事報告	
平成18年 教員の研究・活動（2006.1.1～2006.12.31）		卒業研究発表会	33
研究業績	16	修士論文審査会	33
社会的活動	26	協議会報告	34
学外学術活動	29	学位伝達式	34
海外出張	30	平成18年度 就職状況	34

巻頭言 — 多孔質天然素材への誘い —

准教授 下辺 悟

近年の環境・健康志向の流れの中で、「天然（自然）素材」がクローズアップされ、メディア等で盛んに取り上げられている。例えば、新築住宅の居住空間における建材の接着剤・塗料から発生するホルムアルデヒドやトルエンなどによるシックハウス症候群があげられ、住宅の品確法の名のもと、各住宅・建材メーカーがその対策にしのぎを削っている。

天然素材とはいっても多種多様な種類やタイプがあるので、ここでは私が興味をもった、かつゼミナールや研究の対

象としているものを題材にあげ、その簡単な紹介をもって各種天然素材への誘いとしたい。対象とする素材は「珪藻土」、「備長炭」、「竹炭」、「ゼオライト」、「麦飯石」および「ピーナッツの殻」といった素材表面に無数の大小さまざまな細孔を有する、多孔質天然素材である（写真1参照）。

珪藻土とは、珪酸質の殻をもつ小さな珪藻の遺骸からなる堆積岩または堆積物を指し、多孔質で軟らかい。珪藻土は優れた調湿、吸着、ろ過性能等を有し、最近建材などで注目されている天然素材である。私と珪藻土との直接の出会いは今から10年ぐらい前に、自分の住宅を買い替える時に近辺の住宅展示場へ出かけた際に見かけた、ある住宅メーカーの珪藻土を用いた壁材の性能デモンストレーションであった。珪藻土の機能についてはある程度知識はあったものの、珪藻土に水をかけるとあっという間に水を吸収してしまい、その抜群の保水性に驚愕したことを今でも鮮明に覚えている。わが国の珪藻土の産出地域としては、北海道、秋田県、石川県、岡山県、大分県などがあげられ、石川県は七輪の一大生産地として知られている。

備長炭や竹炭は昔から燃料だけでなく調湿、吸着、ろ過性能等を有する多孔質天然素材として重宝がられており、最近ではマイナスイオンがキャッチコピーのトルマリン（電気石）と同様に、インテリアや癒し系のトレンドな素材として注目されている。ただし、マイナスイオンのキャッチコピーにはまゆつばものが多いことに注意してほしい（自前のデータで確認済み）。これら炭系の諸特性は、その原木や製造



写真1 各種多孔質天然素材

方法の違いによりかなり性質が異なるようである。高品質で高価なものとして、和歌山県の紀州備長炭や千島列島の千島笹炭が有名である。

ゼオライトは粘土鉱物の一種で、わが国に豊富な火山灰土に天然に含まれ、銀イオンと同様な抗菌作用、吸着・ろ過機能がある。産業廃棄物である石炭灰・焼却灰などを有効利用した人工ゼオライトは灰から生まれた宝物で、環境産業革命の申し子、つまり「環境ビッグバン」として称賛を浴びている。

麦飯石は昔から薬石として重宝がられ、多種多様なミネラル分を多く含む。見た目にはごつごつとした麦のご飯のようなことから、この名がつけられている。麦飯石はペット用をはじめ各用途で、水質中性化剤や水質浄化の補助材などとして市販されており、近年では麦飯石を用いた有機農法も実施されている。わが国では麦飯石の産出は極めて少ないが、岐阜県的美濃白川産麦飯石が名高い。

一方、千葉県特産の落花生（ピーナッツ）の殻は産業廃棄物に位置づけられるが、表面を実体顕微鏡で見ると多孔質であることから、何らかの機能を有するものと想像され、その有効活用が期待される。

これらの多孔質天然素材の機能は多岐にわたるため、その一部を呈示することにする。図1は室内環境条件下における稚内珪藻土、竹炭および備長炭を入れた試験用モールド内の土中温度の推移を表したものである（私自身が在室時の合間を見て取ったデータ）。

この図によれば、稚内珪藻土は炭系の素材と比較してほぼ年間を通じて一貫した土中温度変動ループを示し、夏場には室内温度より2～4℃低い。また、炭系の土中温度は稚内珪藻土よりも2～4℃程度高く、冬場での保温効果も大きいようである。これらの挙動は多孔質天然素材の調湿機能と関連性があり、データが物語る一つの事例として興味深い。理工系の学生は折に触れもっとと自然の不思議さに興味・探求の目

を向け、その事象の理解等のために手厚く多面的にデータをとる姿勢を忘れてはなるまい。

写真2は参考までに稚内珪藻土に打ち水した状態（左側）とその直後の吸水・保水状態（右側）を示したものである。この写真より、稚内珪藻土における前述した抜群の吸水・保水性が理解されるだろう。

以上、研究余滴のこぼれ話として筆を走らせたが、現在はこれらの多孔質天然素材による水質浄化、屋上緑化への有効活用と発展させており、近年中には排気ガス浄化もスタートさせたいと考えている。

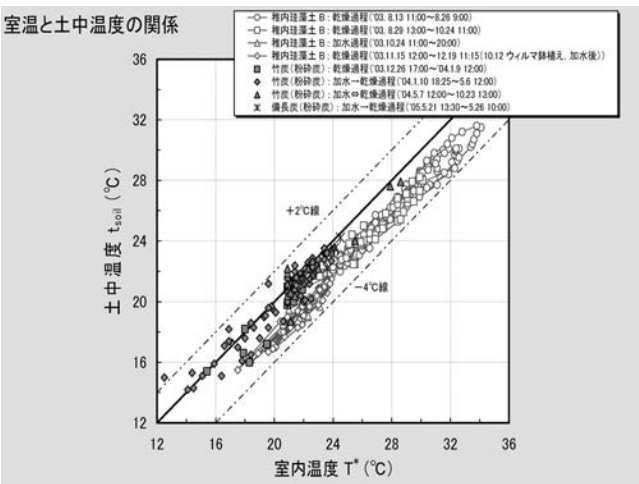
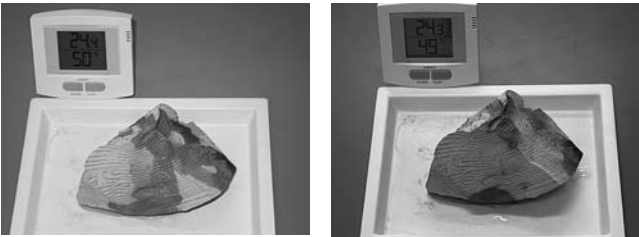


図1 室温と土中温度の関係



稚内珪藻土に打ち水した状態 稚内珪藻土に打ち水後の吸水状態
写真2 稚内珪藻土の吸水・保水性

退職にあたって

教授 星埜正明

平成19年3月31日をもって、構造工学第Ⅰ研究室は閉じられます。故川口昌宏先生が約30年間（1966～1994）、その後、星埜が13年間（1994～2007）、当研究室を教育・研究の拠点として活動してきました。担当科目は、応用力学Ⅱ（構造力学Ⅰ）・鋼構造・構造デザイン等でした。

当初はピンチヒッターのつもりでしたが、柄にもなく、いつしか4番に据えられ苦戦を強いられました。ただ、この間、学科教職員・OBの皆様方のご支援は有り難く、なんと

か任期を全うでき、感謝しています。

そうこうしている内に、年齢も確実に上がってきました。いつの間にか、学科でトップ3に入る年長者になっていました。後進の邪魔にならぬよう、そろそろ潮時との結論に達した次第です。これから先、何をやるかは思案中です。出来れば悠悠自適といきたいところですが、うまくいきますかどうか。

交通システム 研究室

福田 敦 教授

石坂哲弘 助手



交通システム研究室では、様々な交通問題へシステム工学的アプローチによって取り組むことを基本としています。問題に応じて数理計画的手法に基づくモデルやシステムの開発を行い、これらを交通問題が深刻な開発途上国の交通状況の解析や交通政策・交通プロジェクトの評価の問題に適用し、実際に問題解決に貢献することを目標としています。

最近では、地下鉄やBus Rapid Transportなどの導入が交通走行状態や温室効果ガスの排出に与える影響を分析するための利用者均衡配分法、ITS技術を活用して交差点やバス・救急車の運行を高度に制御するシステムを評価するための交通流シミュレーションモデル、プローブカーを活用した交通情報システムなどの開発に取り組んでいます。また、交通安全を推進するためのヒヤリ地図の作成や二輪車用ドライビングシミュレータの開発についても取り組んでいます。

これらの開発したモデルやシステムの適用は、多くの場合、各国の大学の先生や学生あるいは政府関係機関などと共同研究という形で進めています。本年も、タイのコンケン大学、キンモンクット工科大学トンプリ校などの研究グループと共同で研究を進めています。卒研究生や大学院生が実際にこれらの国へ行き、現地の学生と協力して調査なども行っています。

●卒業研究テーマ

- ・バンコク地下鉄延伸による温室効果ガス削減量の推計

- ・バンコク都市圏へのBus Rapid Transport導入の評価
- ・バス運行改善のための高度な信号制御システムのシミュレーションによる評価
- ・交通分野におけるクリーン開発メカニズム導入の可能性の検討
- ・那覇市におけるトランジットモール導入社会実験の評価
- ・プローブ情報システムによる旅行時間推定の信頼性に関する研究
- ・開発途上国の地方都市におけるプローブカーによる旅行時間推定の可能性に関する研究
- ・光ビーコンによるプローブデータの収集可能範囲に関する研究
- ・緊急車両優先信号制御システムの導入に向けた緊急車両の走行挙動の把握

●ゼミナール・テーマ

小グループ毎に対象都市を選び、そこでの具体的な交通問題を取り上げて、それを解決するための計画案を作る。計画案作りの過程を通じて、現況調査の方法や各種の数理計画的手法・モデルを活用した計画案の分析方法を学習する。成果については、レポートを作成し、講評会を行う。なお、平成19年度は、コンケン市（タイ）、ウドンタニ市（タイ）、那覇市などを対象とする予定である。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

交通問題の解決に関わる職業につくことを希望している者。社会基盤計画学、交通システム計画を受講することを推奨する。

▷PICK UP ▶▶▶ 代表研究の紹介 ◀

1. プローブ情報システム導入に向けた旅行時間推定の信頼性に関する研究

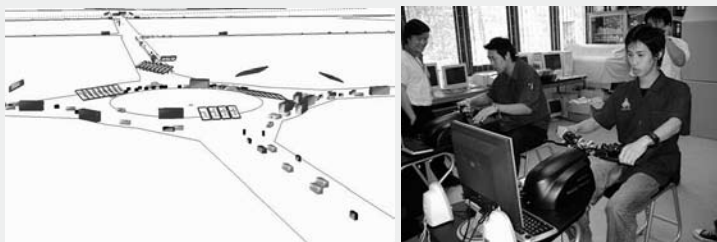
深刻な交通問題の解決に向けた旅行時間情報の効率的な収集方法のひとつとして期待されているプローブ情報システム（走行している車両から交通情報を収集するシステム）の導入可能性の検討を行っている。プローブ情報システムは、走行している車両から情報を収集しているために、リンクの旅行時間を確実に且つ正確に推定できるかどうかの信頼性の検証が必要である。そのために、車両一台一台の挙動を再現するマイクロ交通シミュレーションを利用し、大都市圏の交通状況を仮想的に再現し検証を行っている。

2. バスラピッドトランジット（BRT）導入に向けた研究

BRTは一般道路にバス専用の走行車線を設けて、バスを周囲の交通混雑に影響させずに走行させるために、アジアの深刻な交通混雑の解消の切り札として期待されている。しかし、BRT導入に向けた最大の障害はアジアの都市の特性を考慮した計画方法が十分に確立されていないことであった。そこで、都市全域におよぶBRT導入の影響を考慮するための巨視的モデルと特異な交通状況を再現できる微視的モデルを組み合わせるアプローチを提案し、バンコクを例に適用し、BRT導入に向けたさまざまな検討を行っている。

3. タイにおける二輪車ドライビングシミュレータの開発に関する研究

現在タイでは年間約15,000人の方が交通事故により亡くなっており、その大半を占める二輪車事故への対策が急務となっている。そこで本研究では（株）ホンダが日本国内向けに開発した簡易型二輪車ドライビングシミュレータ（DS）をタイの二輪車交通安全教習に活用すべく様々な検討を行っている。一つに日本国内向けのDSをタイ向けに変更するために、タイの二輪車交通事故の傾向を分析し、その結果を基にDS内の交通状況をタイのものへと変更を行っている。また、タイにおいてDS乗車実験を行いDSの教習効果の測定を行っている。今後は教習効果の継続効果の把握や他の交通安全施策との連携の検討を行う予定である。



水環境システム 研究室

吉川勝秀 教授



川からの都市再生、自然と共生する都市・流域圏の再生（形成）、国土のマネジメント、さらには河川や湖沼、海などの水・物質循環や生態系、広域生態複合（ランドスケープ）に関することについて、国内外を対象として実践的な研究を進める。

第3期の科学技術五ヵ年計画（総合科学技術会議で決定。首相が議長）での重点テーマである「水・物質循環と流域圏」研究に関わるテーマの研究も進めている。日本学会会議でもこれをテーマとして研究を進めることとしており、それとも連携して研究を進めている。

また、千葉県にある大学として、千葉の河川や湖沼（印旛沼など）とその流域、東京湾とその湾岸都市の再生に関するテーマの研究も着実に進める。

国際的には、タイのチャオプラヤ川流域とバンコク首都圏、中国の長江、メコン河、ガンジス川、ユーフラテス川流域等、人口急増地域の持続可能な水政策シナリオ研究を進めている。

●卒業研究テーマ

川からの都市再生、川のユニバーサルデザイン、川での福祉・医療・教育など。

総合的な治水対策（国内外）、水害等での災害弱者対策など。

自然と共生する流域圏・都市の再生（形成）シナリオ（国

内外）。

人口急増地域の持続可能な水資源政策シナリオ（海外）。

多自然型川づくりを超えた川づくり、エコロジカル・ネットワークなど。

都市における道路と川の関係の再構築（道路撤去）による都市再生（国内外）。

沿岸域を含む流域圏での水・物質循環と生態系の解析。

河川舟運と都市再生。

河川の堤防等の力学設計、システムとしての堤防論など。

エコサニテーション（国内外）。

その他、ユニバーサルデザイン等の幅広い社会を対象とした福祉工学的な研究など。

なお、学生の希望するテーマを幅広く受け入れ、実践的に指導する用意がある。

●ゼミナール・テーマ

卒業研究と同様のテーマを設定し、調査・検討・研究することを想定している。

卒業研究と同様に、学生の希望するテーマを幅広く受け入れ、実践的に指導する用意がある。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

卒業研究の学生については、卒業研究のみならず、大学院まで研究・学習を継続する意欲のある学生を優先したい。意欲的で、継続して着実に研究を遂行できることを条件として指導したい。研究成果は対外的に発表する。

ゼミナールについても、意欲的で、継続して着実に取り組むことを条件に指導したい。ゼミナールで取り組んだ成果は対外的に発表することを目指す。



ドイツ・デュッセルドルフのアウトバーンの地下化と水辺・都市再生



韓国・ソウルの道路撤去と河川・水辺再生



大阪・道頓堀川の川からの都市再生、舟運の再興



東京首都圏の流域圏と都市、東京湾

▷PICK UP ▶▶▶代表研究の紹介◀

1. 自然と共生する流域圏・都市の再生

第3期科学技術基本計画の重点研究となっている「水・物質循環と流域圏」研究に対応して、自然と共生する流域圏・都市再生シナリオの研究および流域水政策シナリオの研究を、本国内の首都圏等はもとより、人口が急増するアジアの長江、タイのチャオプラヤ川、ガンジス川、ユーフラテス川、アラル海のシルダリア川流域等も対象に研究を進めている。

2. 川や水辺を生かした都市再生

都心の日本橋川や渋谷川等の典型的な都市河川を対象に、川の再生、川からの都市再生について研究し、政策提言をしている。韓国・ソウルの清溪川、アメリカ・ボストン、ドイツ・ライン川等では、川の上空あるいは河畔に設置された高速道路を撤去して都市を再生することが進められている。日本橋川や渋谷川（古川）でも同様の問題もあり、川からの都市再生として、道路との関係の再構築についても研究している。

教員により下記の本が出版されました。

吉川勝秀編著：『生態学的な斜面・のり面工法—これからの緑化技術—』、山海堂、2006年7月

都市環境計画 研究室

伊東 孝 教授

伊東英幸 助手



都市環境計画研究室では、「まちづくり」（都市計画）、「けしき」（景観工学）、「未来への贈りもの」（歴史遺産）を三本柱にしながら、歴史遺産を活かしたまちづくり計画（観光計画をふくむ）と実践、産業・土木遺産のデザイン分析と提案などに取り組んでいます。昨年からはこれに、都市のミュージアム論を加えました。

●まちづくり

21世紀は、20世紀型のスクラップ・アンド・ビルドの開発手法に代わって、まちのストック—歴史的な蓄積—を活かしたまちづくり（歴史遺産を活かしたまちづくりや観光計画、都市のミュージアム論）と地域の活性化が求められています。

これらの実践の一環として、過去9年間、鞆の浦（広島県福山市）での住民参加型調査と提案、また3年前からは、日本の動く橋の代名詞になっていた「勝鬨橋をあげる」ことにも取り組んでいます。

●環境・景観・美

都市空間の快適性や美の追求、あるいは歴史的景観や文化的景観の潜在的な価値を見出し、価値を顕在化させる計画づくりなどを調査・研究・提案します。

●歴史遺産

歴史遺産を文化遺産として保存し、価値を維持するだけでなく、価値を向上させながら、現代的に活用する企画・計画づくりが求められています。そのためには、先人の築いてきた優れた産業・土木遺産の調査・研究、知られざる産業・

土木遺産の発見と評価方法のあり方、顕在化計画などをおこないます。

自治体などの調査はもとより、国の史跡や重要文化財、世界遺産の調査などにも取り組んでいます。

●卒業研究テーマ

- ・まちづくり、まちづくりファンド、住民参加・市民参加（NGO、NPO）
- ・歴史的文化的景観
- ・遺産論：世界遺産、文化財、土木遺産、産業遺産
- ・遺産を活かした観光計画
- ・博物館学
- ・都市のミュージアム論
- ・東京論、東京の都市計画史
- ・東京湾のウォーターフロント計画と事業史
- ・江戸の橋・東京の橋
- ・東アジア、東南アジアの研究

●ゼミナール・テーマ

- ・文献調査と現地調査の訓練と実際
- ・問題解決学演習と学会での発表

●卒業研究、ゼミナール着手条件

卒業研究を景観分野でおこなう学生は、「景観設計」を受講ないし受講予定であること。



綱ライトフェスタ



「目に見えない遺産」も含めた川崎市の歴史遺産周遊ネットワーク構想



「幻の大運河計画」のゲート：川崎河港水門

▷PICK UP ▶▶▶代表研究の紹介◀

昨年度は修士学生が3人いて、それぞれ力作を書いてくれました。

神辺晴美君の「オーストラリアにおける産業遺産の保全と利活用」は、断片的にしか情報が入らなかったオーストラリアの遺産制度と遺産の保全状況について調査・研究したものです。女子一人で外国のオーストラリアに行き、といっても幸いお姉さんが1年間オーストラリアにいたので、現地ではお姉さんの協力もあったようですが、事前調査をふくめ、実に熱心に研究してくれました。

オーストラリアの保全制度はここ30年ぐらい前にはじまったこと、遺産が分布しているのは都市部に多いという一般論とはちがう逆転現象（都市部は開発圧力が強いので、古いものは残らない）が起きていること、それには国が広いこと、住民の保存運動とそれを支援した専門家グループの存在などを明らかにしてくれました。ハーバースブリッジの袂のロックス地域では、第三セクターのシドニー湾岸協会が古い建物や土地を買い上げ、保全地区指定などをして、実にうまく「Sustainable Heritage（持続可能な遺産保全）」（神辺君の提唱）をしています。これは、日本の社会体制にもあうので、日本への制度移入が可能ではないかと提案しています。

工藤祐介君の論文「歴史的・文化的資源の保全制度における影響評価プロセスに関する研究—日本とアメリカ合衆国の比較分析—」も力作です。制度があるからといって歴史文化資源が保存されるとは限らないのですが、工藤君の問題意識は、制度的に保証されていない歴史文化資源を守るにはどのようにしたらよいか、という壮大な問題意識で取り組んだ論文です。「うまくいくのかな」という懸念がありましたが、1年留年して纏め上げてくれました。日本では法律としてはまだありませんが、先駆的な自治体（金沢市、京都市、横浜市）では条例で法律の不備を補い、計画アセス的なことをしています。諸外国の制度を横断的にみていくなかから、アメリカでおこなわれている環境影響評価プロセスの制度の中に、手本となるものを見い出しました。

片桐隆晴君の論文「歴史遺産の少ない都市におけるまちあるきネットワークと歴史的周遊ルートの提案—川崎市を事例として—」は、データはもちろん丹念に調べましたが、どちらかというと逆転の発想ともいえるべきアイデアチックな論文です。ふつうこのような論文は、遺産があるのを前提としておこなうものですが、彼の論文は「目に見えない遺産」を探し出して、まちあるきネットワークや船による周遊ルートを考えてものです。「見えない遺産」として、名称系・埋没系・面影系・構想系の4つを類型化しました。“Hidden Heritages”として、今後概念的にも発展させたい論文であり、テーマです。

構造工学第二 研究室

柳沼善明 教授

斉藤準平 助手



構造工学第2研究室では、コンクリートに関する構造、材料および環境について研究を行っております。また、課外活動として現場見学や「君は卵を守るか」コンテストなどを実施しております。

平成18年度も現場見学や「君は卵を守るか」コンテストなどを行いました。9月のゼミ旅行では、第二東名高速道路のPC橋建設現場（静岡県静岡市）にて、波形鋼板ウェブPC橋の建設現場を見学しました。はじめて建設現場を見学したゼミナール生は、いろんな建設技術を見学でき、学校では学べない数多くの貴重な体験ができたようです。現場見学後は伊豆長岡温泉と韮山にて温泉や観光を満喫しました。12月には「君は卵を守るか」コンテスト2006を行いました。OBの参加もあり、にぎやかなコンテストになりました。

卒業研究では新材料による多機能コンクリートの開発や、橋梁構造形式の一つである外ケーブル工法によるプレストレストコンクリート橋梁の実験と解析から破壊に対する安全性ならびに設計方法を検討しています。解析ではパソコンによる非線形有限要素解析を行い、コンクリートのひび割れや構造物の破壊までの挙動解析を行っています。

●卒業研究テーマ

- ・新材料を用いた多機能コンクリートの開発
- ・外ケーブル方式PC橋梁の破壊に対する安全性
- ・劣化・損傷した鉄筋コンクリート構造物の損傷度診断技術
- ・交通施設構造物に及ぼす火災の影響

●ゼミナール・テーマ

コンクリートに関する随筆やパンフレットを読み、新形式橋梁の建設記録のビデオを観て、コンクリート全般についての知識を豊かにします。さらに、新しい構造形式の橋梁について、構造上の特徴や景観などについて学びます。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

特になし。



平成18年度現場見学 PC橋建設工事現場にて（静岡県静岡市）

▷PICK UP ▶▶▶代表研究の紹介◀

構造工学第2研究室では、建設材料に多く用いられているコンクリートについて研究を行っております。コンクリートは鉄鋼とともに構造材料として不可欠な材料ですが、材料特性に及ぼす影響因子が多く、またいろいろな分野へ幅広く応用可能な材料です。そのため、研究室ではコンクリートに関して構造から材料および環境まで幅広く研究を行っております。

主な研究テーマの一部を以下に紹介します。

1. 外ケーブル工法を用いたプレストレストコンクリート構造の挙動に関する研究

プレストレストコンクリート構造は、力が作用した時にコンクリートにひび割れが発生しない、または極めて小さいひび割れしか発生せず力を除くとひび割れが閉じるといった挙動を示す耐久性にすぐれた構造形式です。また、外ケーブル工法とはコンクリート断面の外部にPC鋼材を配置するもので、自重の軽減による軽量化、作業の省力化、維持管理が容易等の利点を持っています。そのため外ケーブル工法を用いたプレストレストコンクリート構造は新しい形式の橋梁の一つとして橋梁建設に利用されております。

研究室では、外ケーブル工法を用いたプレストレストコンクリートはりについて、破壊実験および解析を実施し、曲げ、せん断挙動および破壊に対する安全性ならびに設計方法を検討しています。

2. 超軽量骨材コンクリート構造の挙動に関する研究

超軽量骨材コンクリートは軽量骨材を用いるため重さが普通コンクリートの約半分で、自重の軽量化がはかれます。そのため、超高層建物や、長大スパン橋梁への使用が期待されています。しかし、超軽量骨材コンクリートは普通コンクリートと比較して、圧縮強度が同等な場合でも引張強度は著しく低下するため、破壊性状が脆性的という欠点を持っています。

研究室では、超軽量骨材コンクリートの破壊性状が脆性的という欠点を補うため、プレストレスの利用や繊維の混入したはりの破壊実験や解析を実施し、その挙動を検討して超軽量骨材コンクリートの橋梁への適用性を検討しています。

3. 人工ゼオライトの有効利用に関する研究

火力発電所から大量に発生する石炭灰の多くはセメント混和材等に有効活用されています。しかし、一部の石炭灰は活用されず投棄処分されています。それに対し、石炭灰をアルカリ処理して製造した人工ゼオライトは、イオン交換機能、吸着機能、触媒機能等といった機能を有するため広い用途に応用可能で、土木分野における新材料としての積極的な有効活用が望まれています。

研究室では、さまざまな機能を持つ人工ゼオライトをコンクリートに混入し、水中の汚染物質を吸着し水質浄化作用を持つコンクリート、コンクリート中に水分を保持する機能を持った保水性コンクリートなど、人工ゼオライトの機能をコンクリートに応用した多機能コンクリートの開発をめざしております。

基礎力学 研究室

下辺 悟 准教授



・各種土の基礎実験、建設現場・研究所見学

●卒業研究、ゼミナール着手条件

主な研究テーマが地盤材料の基礎・基本ならびに地盤防災・環境地盤工学への応用に関するものであるため、興味のある方ならどなたでも大歓迎です。

本研究室は、人間生活を営むうえで最も重要な一つである「土」を主な研究の対象としていることから、次のような三つのキャッチフレーズを掲げている。

- ◎各種最新センサーを用いた地盤防災の検知技術！
- ◎環境にやさしい天然素材の有効活用！
- ◎得体の知れない土を科学する！
 - ・研究室の場所 7号館1階 7110室
 - ・研究室の構成員 下辺 悟 准教授、大学院生2名・卒研生7名（平成18年度実績）

●主な研究テーマ

- ◎ADR土壌水分計の実用性と地盤防災の検知技術への応用
- ◎多孔質天然素材の材料特性と土木・環境分野への有効活用
- ◎フォールコーン法による土の実用的分類の構築とその工学的利用
- ◎屋上緑化とそのモニタリング手法
- ◎地盤環境モニタリング

●ゼミナール・テーマ

- ・多孔質天然素材「珪藻土、備長炭、竹炭、ゼオライト、麦飯石およびピーナッツの殻」を科学する
- ・怖い「地盤災害」とその防災対策



平成18年度卒研ゼミ合宿（仙台・松島・山形方面）

▷PICK UP ▶▶▶ 代表研究の紹介 ◀

1. ADR法に基づく地盤防災の検知技術への応用

わが国は土砂災害が多い国土環境にあることから、最新の土壌水分・圧力センサーを用いて地盤防災（斜面崩壊予知、堤防の漏水検知など）の簡便なリアルタイム・モニタリング技術を探求している。その結果、各種センサーの諸特性の検証とともに、降雨浸潤による土壌カラム実験や斜面崩壊実験等を通してそのメカニズムを実証した。

2. 多孔質天然素材の環境分野への有効活用

近年、環境意識の高揚と共に各種天然素材の有効活用が期待されている。多孔質な珪藻土の優れた諸特性を利用した環境分野への有効活用（水質・大気浄化など）を中心に、環境工学の視点からチャレンジしている。その結果、多孔質天然素材は高い水質浄化機能を有していることを実証した。

3. 土の実用的分類の構築とその工学的利用

建設工事用材料としての土を簡便・迅速に判別・分類できれば、実用的な付加価値が大きくなる。フォールコーン試験に基づく土の実用的な材料分類を構築し、その工学的な利用を探求している。

その結果、コーン貫入量より土の状態量である液性指数が一義的に評価され、また建設発生土の土質区分も判別できることを可能にした。



土層への浸潤モニタリング



降雨による斜面崩壊実験



多孔質天然素材による水質浄化実験



土の判別・分類のためのフォールコーン試験装置一式

交通景観 研究室

天野光一 教授

岸上明子 助教



●研究室の目標、研究分野

究極の目標

・「美しい国土、住みやすい地域、都市をつくる」

研究内容

後述の3分野を基本に、加えてその間の学際的な研究を目指す。

- ①景観分野：本研究室の基本的な研究分野である。居心地のよさをも含むが、極論すればどのようにしたら美しい風景を創造できるかを研究する。
- ②観光分野：観光とは国の光を観ることである。景観を含む国の光をどのように創造し、どのように見せるかを研究する。
- ③交通分野：人が存在するところ必ず交通は生じる。交通空間・施設をどのようにつくりあげるか、また住みやすさを保障する交通はどのようなものかを研究する。

●研究室に向く人、向かない人

・向く人

景色を見るのが好きな人、本を読むのが好きな人、議論をするのが好きな人、旅行が好きな人、雑学にたけている人、人のために何かできる人

・向かない人

偉くなりたい人、本といえば漫画の人、体育会系でなければ気のすまない人、成績が良いのが偉いと思っている人、研究室にくると就職が有利になると思っている人、あいさつのできない人

●卒業研究テーマ

- ・景観原論
- ・景観計画・設計論
- ・交通空間・施設の計画・設計関係
- ・都市史関係（アジアの都市を含む）：景観、交通、観光等に視座をおいた都市開発史研究、過去の・観光計画関係
- ・地域づくり関係
- ・都市計画関係

●ゼミナール・テーマ

- ・専門書、論文の輪読
- ・現地見学、調査
- ・計画設計実務にかかわる調査
- ・ディベートの実施 など

●卒業研究、ゼミナール着手条件

特になし

情報工学 研究室

中山晴幸 専任講師



●研究室紹介

情報工学研究室では、交通に関連する情報を中心に様々な取り組みをしています。まず、車両を運転中のドライバーの情報を収集して、運転に伴う疲労の変動について様々な面から基本的な研究を進めると共に、ドライバーの疲労を検知する手法について開発して特許を申請しました。さらに、1000km以上の距離を運行する長距離トラックドライバーに対しても実証実験を実施して、その実用性も確認し、多くの成果を得ています。現在、運転中のドライバーの疲労情報をドライバーと運行管理者がリアルタイムに情報を共有できるシステム開発を開始しています。

次に、閉鎖空間で空間把握をしにくい地下鉄構内の経路案内と地下鉄ネットワークを含めた「歩きやすい経路」というキーワードで検索できるシステムの基本研究も行っています。現在の経路案内では、「低運賃経路」や「短時間経路」について検索する手法が一般的ですが、高齢化が進むことにより、「歩きやすい経路」というキーワードの検索は今後一般的になると考えられます。今後はインターネットで「歩きやすい経路」のweb検索システムの開発を進める予定です。

webベースで学習するシステムであるe-learningは、時間に関係なく学習可能な手法として近年注目されてきていま

す。本研究室では、土木、電子情報、電気工学科の先生方と、公務員試験情報の取得や学習が可能なe-learningシステムを開発すべく様々な取り組みを始めています。

ゼミの活動では、初級システムアドミニストレータの受験を目的とした勉強会の実施と、PHPというC言語によく似たweb用のスクリプト言語を利用して、ダイナミックに変化するwebサイトの作成について勉強をしています。この成果の一部は、研究室のホームページに应用しています。

●卒業研究テーマ

- ・ドライバーの運転疲労に関する基礎的研究
- ・長距離トラックドライバーの運転疲労検知に関する実証実験
- ・ドライバー疲労情報と移動体通信を用いた管理システムに関する研究
- ・地下鉄駅における低歩行負担経路に関する情報提供方法の検討
- ・歩行者の歩行挙動とそのシミュレーションモデルについて
- ・鉄道駅におけるバス案内情報に関する現状調査
- ・公務員試験問題のデータベース化とe-learningシステムの構築について
- ・力学に関するe-learningシステムの検討

●ゼミナール・テーマ

- ・初級システムアドミニストレータに向けた勉強とPHPを利用したダイナミックなホームページの制作

●卒業研究、ゼミナール着手条件

- ・着手条件はプログラミングを修得したか、受講中の学生。

運輸交通計画 研究室

轟 朝幸 准教授



当研究室では、「活力ある国土・地域づくりのために交通をマネージする」ことを目標として研究を進めています。キーワードは「交通まちづくり」「インターモダリズム」。交通まちづくりとは、地域の交通施設や交通サービスを改善して、生活や産業活動をサポートし、地域を元気にしようとする概念です。交通まちづくりの‘まち’は空間的広がりを意味し、国土や地方、都市、街などを包含しています。インターモダリズムとは、道路や鉄道、バス、空港・航空、港湾・船舶といった陸海空のあらゆる交通手段を有機的につなぎ、時空間的にまた料金等サービス面においてもシームレスな移動を可能にしようとする概念です。インターモダリズムの確立をめざし、交通まちづくりを実践するための理念、政策、理論、技法などについてフィールド調査や社会実験などを実施しながら研究を進めます。

●卒業研究テーマ（予定）

- ・インターモダリズムの確立
- ・公共交通（鉄道、バス、LRTなど）による地域活性化
- ・地域ITSによる公共交通活性化
- ・公共交通利便向上のための情報提供の高度化
- ・鉄道需要のマーケティング戦略
- ・空港運営の効率評価と事業戦略

- ・国際観光流動の動向と観光交通計画（航空輸送やクルーズ船による周遊観光）
- ・インターネットを活用した交通計画調査手法の確立
- ・バス停アダプトプログラムによる地域連携
- ・交通エコロジー啓発活動の確立

●ゼミナール・テーマ（予定）

- ・運輸業界の動向をバーチャル株取引から学ぶ
- ・TOP「交通技術資格者」、SPI、TOEICなどの試験対策
- ・交通計画などに関する文献レビュー

●卒業研究、ゼミナール着手条件

原則として「交通システム計画」「交通需要予測」「数理統計学」を履修

詳しくは研究室HPをご覧ください。

<http://www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp/PUBTRPLAN/>



写真1 客船シリアライン（ヘルシンキ）



写真2 バスと自転車道（コペンハーゲン）



写真3 カストラップ空港（コペンハーゲン）



写真4 フロム山岳鉄道（ノルウェイ）

743・B 号室

道路交通 研究室

安井一彦 准教授



3年生は交通工学に関するゼミ、TOP（交通技術資格）に合格するためのゼミ、就職試験対策としての各種講座、4年生は交通工学に関するゼミと卒業研究のミーティングを行っています。大学院生は、修士論文を進める一方、各学会での活動や民間・官公庁からの様々な共同研究等を行っています。交通信号制御に関して研究を行っている、わが国でも数少ない研究室です。

道路交通研究室では、道路上に起こりうるあらゆる現象について研究を行ってきました。しかし、まだ解明されない現象がたくさんあります。これからも幅広い視野をもって、道路交通の効率・安全に向けて、研究に励んでいきます。研究室の詳細については、下記ホームページをご覧ください。

<http://www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp/ROADTRA/IE/itop.html>

●卒業研究テーマ

- ・踏切連動信号制御の導入効果に関する研究
- ・クリアランス時間の適正化に関する研究
- ・ジレンマ抑止制御の導入効果に関する研究
- ・押しボタン式信号の高度化に関する研究
- ・高速道路における道路線形と実勢速度に関する研究
- ・踏切での一時停止義務の廃止によって生じる課題と対策

●ゼミナール・テーマ

- ・交通工学関連知識のマスター（TOP資格の取得）
- ・プレゼンテーションツールの学習

●卒業研究、ゼミナール着手条件

交通流理論、交通制御の単位を取得、もしくは受講しており、交通問題に強い関心を持っている学生。



研究室HP



交通流解析

交通環境 研究室

藤井敬宏 教授



道路や都市を対象とした社会基盤整備の評価、ならびに交通環境の改善に向けた対策方法の研究を進めています。環境の視点では、社会基盤整備を行う際の環境の保全や創造を図る方法論や計画論を検討しています。また、交通の視点では、地域の交通改善計画や交通バリアフリー化に向けた対策・評価方法の検討を行っています。

平成18年度のゼミナールは、修士課程M2が5名、M1が2名、卒研生10名、3年ゼミ生9名、研究生1名の総勢28名が在籍し、毎週行っているゼミナールに加えて、研究室内の卒業研究発表会を年3回、卒業研究の各種調査、金沢へのゼミ旅行、狛江市のまちづくり会議等への参加、ならびにソフトボールやフットサル等のスポーツを交えてゼミ活動を行いました。

●卒業研究テーマ（予定）

- ・NOx・PM法およびディーゼル車排出ガス規制の影響と効果
- ・環境に配慮した公共交通網の整備
- ・都市計画道路の整備効果とコミュニティへの影響
- ・都市部における福祉避難所を活用した防災計画
- ・武蔵村山市のコミュニティバスの路線変更の評価
- ・ロービジョンの方々に配慮した歩行空間評価

●ゼミナール・テーマ

- ①グループディスカッション
 - ・ビデオ・ニュースを題材とした環境・都市・交通問題
 - ・審査会（平成18年度：10年後の日本と10年後の自分）
- ②狛江市まちづくり市民会議への参加
 - ・交通調査結果を学生発表
- ③現代用語検定の時事学習問題の実施（3回程度）

●卒業研究、ゼミナール着手条件

交通問題に関心を持ち、ワークショップやフィールド調査にも積極的に参加する意欲があること。



ゼミ・ミーティング



グループディスカッション



ゼミ旅行（金沢：そば打ち）



ゼミ・スポーツデイ（フットサル）

736 号室

環境工学 研究室

岩井茂雄 教授

宮本 守 助手



本研究室では『環境』をキーワードにいろいろな問題に取り組んでいます。少数ながら協力し合い、明るい雰囲気の中かでいろいろなことに対して積極的に活動しています。現在は主に沿道環境の改善のためにタイヤ／路面騒音の低減に関する研究、路上雨水の浄化を含んだ地盤汚染対策に関する研究、透水性舗装による都市環境改善の研究、歩行形態を考慮した歩きやすい舗装に関する研究などを行っています。

平成18年度は修士課程2年生1名、1年生1名、研究生1名、卒業研究生7名、ゼミ生12名の総勢22名が、6月に船橋市・環境フェア、8月にオープンキャンパス、10月に国土交通省関東技術事務所・建設技術展示会、さらに11月には習志野祭（学部祭）などの様々なイベントに参加し、研究や学習の一端を一般の方に紹介すると同時に、学外の人々との交流も広く行ってきました。また学外のシンポジウムや環境調査への参加などを通じてOBとの交流も深めています。

●研究テーマ

- ・タイヤ／路面騒音に関する研究
- ・路上雨水に関する研究
- ・歩きやすい舗装路面に関する研究
- など

●ゼミナール・テーマ

- ・環境のとらえ方
- ・快適性について
- ・道路交通環境について
- ・大気質の調査方法について
- ・水質の調査方法について
- ・騒音・振動の調査方法について
- ・沿道環境対策について
- ・環境白書を読んでなど

●卒業研究、ゼミナール着手条件

特にありませんが、研究テーマやゼミナール・テーマ、その他環境工学に関わる問題に興味を持ち、自主的に活動できる方を望みます。



ゼミ旅行（福岡）



ゼミナール生歓迎会



習志野祭（研究室）での説明



建設技術展示会での説明

交通計画第二 研究室

高田邦道 教授

小早川 悟 専任講師



交通計画第二研究室では、従来から交通技術をベースにした交通計画の構築を目指して研究を進めています。具体的には、「地区交通計画」、「物流施設計画」、「都市交通計画」などの方法論を成果として挙げてきました。この中で解き切れていない問題として、「路上駐車」の路外への受け入れ方策、「公共交通システム構築のためのアクセス支援」、「地区物流計画の構築」、「車抑制のための住民判断への情報提供方法論」等々が挙げられています。これらの問題を、『地球環境を考える交通技術』という視点から解いていこうと考えています。さらに、「安全」を目指した社会システムの必要性に鑑み、『交通事故半減プロジェクト』運動とその技術的サポートに取り組んでいます。

また、昨年から平成18年6月1日から施行された改正道路交通法による違法駐車取り締りの民間委託によって、ドライバーの駐車行動がどのように変化したのかという分析を行っています。

●卒業研究テーマ

- ・公共交通不便地域におけるタクシー交通の利用調査
- ・駐車場の整備方法とその可能性
- ・公共交通不便地域におけるパーク・アンド・ライドへの転換可能性に関する研究

- ・路上駐車を取り締まり方法
- ・交差点ハンプの交通現象解析と課題の実験
- ・地区住民の視点から見た歩道整備
- ・中核的病院への来院交通手段の実態
- ・都市における二輪車の走行空間に関する研究

●ゼミナール・テーマ

- ・高田邦道教授による講義「これからの交通工学」等
- ・「交通技術必携」の輪読および発表
- ・セミナー、シンポジウム、講習会等の参加

●卒業研究、ゼミナール着手条件

交通総論、ソーシャル・ロジステックス、交通現象解析Ⅰ、交通現象解析Ⅱを受講していること。



ロンドンのレッドルート（路上の貨物車管理）



東京：スミーズ東京21
ローディング・ベイの設置（路上の荷さばき施設）



英国：リーズ
ローディング・ベイの設置（路上の荷さばき施設）

ポケット・ローディング（路外の荷さばき施設）

719 号室

空間情報 研究室

佐田達典 教授



本年4月より伝統ある本学の一員に加えていただくこととなり、非常に誇りに思うとともに責任の重さをひしひしと感じております。何卒、よろしくお願いいたします。

もっとも平成15年度から4年間、非常勤講師として、測量学・測量実習・空間情報工学を担当していましたので、学部3年生以上にはお馴染みと思います。これまでは週に1回顔を合わせるだけでゆっくりお話することもできませんでした。皆さん挨拶もよくできるし、活発に質問もしてくれて、積極的な姿勢をいつも頼もしく思っていました。今後、ゼミナールや卒業研究で一緒に勉学できることを楽しみにしております。

さて、空間情報研究室では、「ポジショニング（測位）」という概念を核として研究活動を進めていきたいと考えています。これは「位置情報」を取得する技術であるGPS、デジタル写真測量、衛星リモートセンシング、それらを記述表示する可視化技術、分析解析するGISや三次元解析技術などで構成されます。

学問的には「測量学」が中核となりますが、その周りに近年提唱されてきた「空間情報工学」があり、これらの技術領域を社会基盤施設、交通基盤施設の計画、建設や維持管理、あるいは交通システムそのものへの応用できるかを

研究していきたいと考えています。

極めて基礎的な領域ですので、他の分野との連携が特に重要と考えます。将来は学科の他の研究室との連携、さらには他学科の研究室とのコラボレーションもやっていきたいと思っています。

●卒業研究テーマ

当面は次の3テーマを考えています。

- ①衛星測位技術に関するテーマ：GPS、GLONASS、GALILEO、準天頂衛星など。
- ②三次元形状計測技術に関するテーマ：デジタル写真解析、三次元レーザースキャナーなど。
- ③空間計測技術の交通分野への応用に関するテーマ

●ゼミナール・テーマ

衛星測位技術、デジタル写真解析、リモートセンシングに関する専門書、情報化施工に係わる論文の輪講を行います。これらの分野に関する調査とレポートの作成、発表を予定しています。

●卒業研究・ゼミナール着手条件

空間情報工学を取得していることが望まれます。

まだ実際の研究活動が始まっていないのをいいことに勝手な願望も含めて書いてしまいました。今後ともよろしくご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。



デザイン 研究室

伊澤 岬 教授

江守 央 助手



毎年船橋日大前駅で開催している「卒業・修士設計展」は昨年第4回を迎え「福祉・景観展」をメインテーマとして、観光ユニバーサルデザインの視点から、京都の世界遺産の全社寺境内1/2000の地形模型を中心に展示しました。これは景観の魅力をまず地形に探ろうということで企画したもので、卒業設計作品とともに展示し、他大学からの見学者を含め多くの反響をいただきました。本年は、一昨年の「景観デザイン教育展」を補完する視点から、教育者としての自身のデザイン活動を中心に「プロフェッサー デザイナー展」を企画しております。

また研究室では、様々なコンペ「橋」「照明」「商業施設」に応募しましたが、特に大学院生、4・3年生らの当選が相次ぐ一年でした。

●卒業研究テーマ

設計テーマ：

1. 防災都市構想
2. ユニバーサルデザイン（都市、交通、建築）
3. 交通空間のデザイン

論文テーマ：

1. 地形に読む都市・境内・キャンパス
2. 交通空間のユニバーサルデザイン

3. 観光ユニバーサルデザイン

①坂のまちにおける観光UD ②世界遺産の観光UD

4. 都市と防災

①東京湾の防災都市 ②自然災害と世界遺産

5. 交通バリアフリーと市民参加のまちづくりの関連についての研究

6. 障がい者に配慮した都市模型の作製に関する研究

7. 地域福祉輸送の提案に関する研究

●ゼミナール・テーマ

各種デザインコンペへの参加

都市・交通空間ウォッチング

ワークショップの企画・運営

●卒業研究、ゼミナール着手条件

設計をテーマとする人は、景観設計・構造デザイン受講者、および受講予定者



写真1 沖縄国際通りに立地する商業施設のコンペ応募案。「環境」「福祉」がテーマ、3Dによる内観は大学院生による

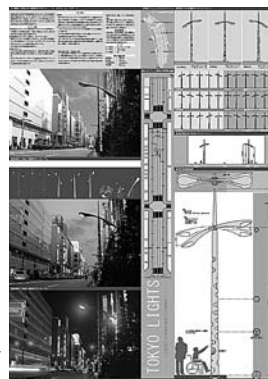


写真2 銀座・京橋・日本橋／中央通り照明デザイン国際競技応募案

地盤工学 研究室

巻内勝彦 教授

峯岸邦夫 助手



平成18年度は卒研生（4年生）が11名、ゼミナール生（3年生）が8名、計19名でした。毎年大学院生が兄貴的存在で研究室をまとめていましたが、今年度は大学院生が不在でしたが、いつもの年よりも纏まっていました。

卒業研究では、継続研究の交通施設に係わる地盤の力学特性のほかに歩道路面の歩き易さの評価や受託研究2件（斜面緑化における短繊維混合補強土工法、コンクリートブロック舗装下に敷設するジオシンセティックスの耐久性評価）をテーマにして行いました。

11月4日から10日まで米国で開催されたコンクリートブロック舗装に関する国際会議参加とコンクリートブロック舗装の実態調査のため、卒研生4名が峯岸助手とともに渡米しました。

卒研生の動きとしては、10月29日東大本郷キャンパスにて開催された関東大学地盤研究室対抗ソフトボール大会で4年ぶりに優勝しました（詳細は研究室HPをご覧ください）。

また、12月2日(土)地盤工学会関東支部主催の第1回ソイルタワーコンテスト（学生参加の行事）が船橋校舎2号館地下の地盤材料系実験室で開催されました。当研究室からも選手と運営スタッフとして4年生全員が参加しました。開催校の強みでいろいろと小道具を準備しましたが、結果は残念ながら8チーム中4位でした。

●卒業研究テーマ

- ・交通荷重を受ける関東ロームの力学特性
- ・土の物理的指標試験計測値の統計的性質
- ・交通荷重を受ける軽量化地盤材料の力学的特性
- ・現場発泡硬質ウレタンフォームのポアソン比に関する研究
- ・発泡廃ガラスを混合した地盤材料の締固め特性
- ・斜面緑化法における短繊維混合補強土工法の力学特性
- ・路面の反発係数測定法
- ・路面テクスチャーと歩行性評価
- ・舗装用強化ジオテキスタイルの耐久性評価

●ゼミナール・テーマ

- ①トランスポーターシオンジオテクノロジー（交通施設の地盤工学）とは？
- ②地震・大雨等による地盤災害と地盤技術
- ③地盤構造物への新素材・新材料
- ④地盤環境技術
- ⑤性能設計法入門（これからの国際標準設計法）
- ⑥魅力あるアースデザイン
- ⑦地盤構造物を含む交通施設のバリアフリーに関する講話
- ⑧フィールド・トリップ（地盤の観察、現場見学など）

●卒業研究、ゼミナール着手条件

特に設けていません。



平成18年度 博士論文・修士論文・卒業研究

博士論文

ブローブ情報システムによる旅行時間推定の信頼性に関する研究
主査：福田 敦教授、副査：高田邦道教授、泉 隆教授、轟 朝幸助教授
石坂 哲宏
Study on Planning Approach for Bus Rapid Transit
Implementation — Dealing with limited Conditions from Asian Cities Perspective —
主査：福田 敦教授、副査：天野光一教授、島崎敏一教授、Matthew J. Barth教授
Thaned Satiennam

修士論文

都市鉄道新線の開業遅延による効果損失の影響分析
—東葉高速鉄道を事例として—
指導：轟 朝幸 助教授 栗野壽一
公共交通経路検索ログデータを用いた非定常トリップの分析
指導：轟 朝幸 助教授 大西貴佳
交通アンケート調査における Web アンケート活用の信頼性について
指導：轟 朝幸 助教授 須永貴之
旅客機の中・小型化による運航効率の向上の分析
指導：轟 朝幸 助教授 角田 健
バス停付近における路上駐停車の社会的費用の計測
—通過交通に及ぼす影響分析—
指導：轟 朝幸 助教授 村川貴紀
首都圏型パーク・アンド・ライドシステムの実施可能性に関する研究
指導：高田邦道 教授、小早川 悟 専任講師 五十嵐一智
コミュニティバスの導入効果に関する研究
—練馬区の福祉コミュニティバス社会実験からの検討—
指導：高田邦道 教授、小早川 悟 専任講師 花野恭平
車両挙動からみたインターグリーンタイムの適正化に関する研究
指導：高田邦道 教授、安井一彦 専任講師 木村純司
外ケーブル工法桁橋梁における突起定着部の破壊に関する研究
指導：柳沼善明 教授 長谷川晃久
ゴムラテックスモルタル合成鋼床版に関する基礎的研究
指導：星埜正明 教授 蒔田 睦
歴史的・文化的資源の保全制度における影響評価プロセスに関する研究 —日本とアメリカ合衆国の比較分析—
指導：伊東 孝 教授 工藤祐介
歴史遺産の少ない都市におけるまちあるきネットワークと歴史的周遊ルートの提案 —川崎市を事例として—
指導：伊東 孝 教授 片桐隆晴
オーストラリアにおける産業遺産の保全と利活用
指導：伊東 孝 教授 神辺晴美
タイヤ／路面騒音特性に影響するタイヤトレッド溝形状に関する研究
指導：岩井茂雄 教授 牧迫 大
大規模ニュータウンの変容に伴う交通事故発生に関する実態分析
—千葉ニュータウンを事例として—
指導：福田 敦 教授 伊藤香苗
沿道大気汚染物質排出量制限の下でのトリップ最大化モデルに関する研究
指導：福田 敦 教授 井口智庸
軌道系公共交通機関の新規開業に伴う行動変容の持続性とその心理要因に関する研究
指導：福田 敦 教授 梅原 隼
バンコクにおけるパラトランジットの運営の実態とその可能性に関する研究
指導：福田 敦 教授 大島良輔
環境施設帯の整備形態を考慮した沿道住民による道路機能評価に関する研究
指導：藤井敬宏 教授 秋山修平
トラック事業者の環境負荷軽減対策に関する研究
—NOx・PM法およびディーゼル車走行規制の効果と影響について—
指導：藤井敬宏 教授 景山あずさ
ワークショップを活用した下田市既成市街地の交通改善計画に関する研究
—下田市都市計画マスタープランにおける取り組み—
指導：藤井敬宏 教授 倉持孝慎
社会福祉施設を核とした要援護者に対する地区防災対策に関する研究
指導：藤井敬宏 教授 小林 繁
3次元画像解析ソフトを用いた歩道空間のバリア評価に関する研究
指導：藤井敬宏 教授 齋藤由中
拡張フォールコーン法の実用性とその応用に関する研究
指導：下辺 悟 助教授 小林保彦

卒業研究

交通景観研究室（天野光一 教授）…………… 【 】は共同論文指導
尾道の斜面地における街路景観の景観評価に関する研究
高田雅章
歩行者天国実施時における歩行者の歩行位置の実態について
上原健太郎
人が有効とするまちの情報の分析
—避難経路選択を例として—
岡田遥香

城下町空間におけるイメージ評価に関する研究
—神奈川県小田原市を事例に—

瓜生昌彦

ドバイの都市形成に関する基礎的研究

太田裕希

映画の中に見る海の魅力に関する基礎的研究

山田佑輔

景観法に基づいた景観計画に関する研究

櫻庭喜寿

街路における歩行者の行動特性と注視特性に関する研究

塚本祐輔

神楽坂におけるシークエンスに関する研究

畑山陽祐

アーチ橋のゲシュタルト認識及び内力イメージに関する研究

山本千恵

■ デザイン研究室 (伊澤 岬 教授).....

浅草・マルチモーダルステーション構想

小津野勝也

東京水辺再生構想

—スタティクな水辺からダイナミックな水辺へ—

下田明広

東京湾防災壁構想 —川崎臨海部をモデルとして—

山田啓太

横浜高架水運再生構想

高橋篤史

伊勢・勢田川「舟参宮」再生構想

中村康正

銀座・京橋・日本橋/中央通り照明灯整備構想

塩田直彦

京都再生構想 —観光ユニバーサルデザインの視点から—

土川泰明

イメージマップを通じた視覚障がい者の都市模型における空間認識の研究

板倉康典

交通バリアフリー法の事業計画にむけた当事者参加のワークショップの実践

福島浩一

■ 都市環境計画研究室 (伊東 孝 教授).....

『日本の近代土木遺産』“2000選”と“2800選”との比較分析

中井正登

『日本の近代土木遺産』と“登録土木遺産”の比較と現状に関する研究

櫻井進太郎

川崎市の埋立造成事業にみる都市形成史

—隣接都市：横浜市と比較して—

丸山宗徳

■ 環境工学研究室 (岩井茂雄 教授).....

歩行形態と路面の摩擦特性を考慮した歩きやすい路面について

小池智美

パターンノイズ特性とその発生要因

早稲田耕治

ハンマー打撃加速度を用いたタイヤと路面の硬さ評価に関する実験的研究

大内 牧、田中諒平

車道部での降雨の汚染実態と影響要因

高橋 栄

可燃ごみの収集ルートを選定に関する一考察

—船橋市を例として—

戸田健作

オフィスビルの形態と都市の熱環境の関係についての考察

—東京丸の内を例として—

佐橋拓彦

■ 基礎力学研究室 (下辺 悟 助教授).....

拡張フォールコーン法による土のコンシステンシー特性の評価とその利用

氏平成俊

主働土圧に及ぼす境界条件の影響

—アルミニウム棒を用いた模型実験—

宮森建樹、江田 仁、山根彬寛

ADR法による含水量モニタリングと斜面崩壊実験への適用

川田靖久、平岡 峻

多孔質天然素材の浸潤過程とその水質浄化機能

水上晃嘉、吉田全克

■ 交通計画第二研究室 (高田邦道 教授・小早川悟 専任講師)...

レシートバックシステムによるP & R駐車料金低減化に関する研究

青木優弥

高齢者の外出手段についての調査研究

—千葉県鎌ヶ谷市を事例として—

伊東勇輝

中核的病院へのモビリティ確保に関する研究

—福祉コミュニティバスの利用実態からの分析—

金井佑樹

石神井公園地区における道路交通法改正前後のポケット・ローディングの利用実態

佐久間 寛

バス乗合事業規制緩和による公共交通不便地域への影響

—船橋市を事例として—

佐藤 歩

二輪車の走行空間に関する研究

佐藤哲也

改正道路交通法施行に伴う路上駐車の実態分析

杉島康太、長谷川大悟

東京都心部における貨物車の駐車特性に関する基礎調査

佐川翔太

台車集配による荷の集配現況と利害特質

棕本啓太郎【木戸伴雄】

■ 運輸交通計画研究室 (轟 朝幸 助教授).....

航空会社による国際空港の選択要因分析

飯泉慎太郎

千葉県のコミュニティバスの動向調査

—2006年度版—

石井弘樹

路面電車の混雑情報提供による乗車変更行動の分析

伊藤健史

警察における自転車交通安全対策に関する実態分析

栗林めぐみ

千葉駅における客待ちタクシーの行動に関する実態分析

小池幸玄

交通アンケート調査における携帯電話を活用したデータ回収の検討

近藤和宏

交通事故データベースを用いた道路構造・環境要因による事故分析 —千葉県を対象として—

佐久間奏衣

千葉ニュータウンの土地利用変更に伴う道路交通への影響分析

樋口浩子

「駅ナカ」が駅前商店街に及ぼす影響の実態分析

和氣悠治

■ 情報工学研究室 (中山晴幸 専任講師).....

ドライバーの運転疲労に関する基礎的研究

中城拓也、鈴木健之

長距離トラックドライバーの運転疲労検知に関する基礎的研究

矢野 熱

地下鉄駅における低歩行負担経路に関する検討

小林陽樹、水越健介

横断歩道周辺における歩行者の歩行挙動について

山崎康史

鉄道駅におけるバス案内情報に関する現状調査 宮腰一史
公務員試験問題のデータベース化とe-learningシステムの構築
について 関口直也、村田尚哉
力学に関するe-learningシステムの検討 小笠原進一

■ 交通システム研究室 (福田 敦 教授).....

走行特性を考慮した車種別プローブカー混入率の算出に関する
研究 石川博章
小型道路による連続立体交差導入後の旅行時間の推計
伊藤 晃
タイ・バンコクにおけるパトランジットの利用・運営実態に
関する研究 荻田基司
光ビーコンによるプローブデータの収集可能範囲に関する研究
柿崎裕介
タイ・バンコクにおけるマイクロ交通シミュレーションを用いた
BRT導入の評価に関する研究 金子翔一
タイにおける二輪車ドライビングシミュレータを用いた危険予
測訓練に関する研究 佐藤朋美
ゆいレールに対する交通手段選択意識の時間的変化に関する分
析 清水駿太
M-MOCSを想定した青信号通過率と緊急車両の速度変動に関
する調査 中川貴之
バス停に隣接している前後交差点におけるバス乗降感应信号制
御に関する研究 中村賢治
首都圏中央連絡道路(幸手市区間)におけるミチゲーションバ
ンクの設定に関する研究 福田博之
交通シミュレータ構築のためのばねの運動方程式を用いた追従
モデルの提案 藤田 匠

■ 交通環境研究室 (藤井敬宏 教授).....

武蔵村山市市内循環バス(MMシャトル)の路線変更に関する
研究 黒川 宣、串田好史
富士市におけるゾーニング手法を用いた公共交通整備地区の抽
出に関する研究 秋草弘喜
福祉避難所における社会福祉施設の活用に関する研究
市川浩俊
市原市における交通バリアフリーの市民活動の継続に関する研
究 左近義英
歩行空間評価における3D画像解析ソフトを活用したバリア影
響円の適用性に関する研究 井上雅喜
狛江市のまちづくり条例に基づく共同提案型交通改善計画に関
する研究 山岸弘明
共分散構造分析を用いた環境施設帯の沿道環境評価に関する研
究 山田雄佑
自動車NO_x・PM法およびディーゼル車走行規制におけるト
ラック事業者の環境意識に関する研究 地引弘喜
ベトナム・ハイフォン市の都市計画マスタープランに関する研
究 若宮一恵

■ 構造工学第一研究室 (星埜正明 教授).....

ゴムラテックスモルタル合成鋼床版に関する基礎的研究
上田航太郎、岡村隆広

ゴムラテックス混合コンクリートの基本性状に関する実験研究
内藤陽介、長谷川朋徳

弾性直結軌道の防振材の形状と配置に関する研究
木村 孟、草地 茂【井上寛美】

PCまくらぎの最適長さに関する研究
蜂須賀甲子郎、渡辺亮太【井上寛美】

■ 地盤工学研究室 (巻内勝彦 教授).....

火山灰質粘性土の物理的指標試験計測値の統計的性質
海老名 翔
高含水比火山灰質粘性土の強度特性 會田亮祐
軽量盛土材ウレタンのポアソン比に及ぼす載荷変形速度の影響
薄葉有矢
EPSビーズ混入軽量化地盤材料の力学的特性 山中光一
発泡廃ガラス混合軽量化土の力学的特性 中原季彦
斜面緑化用短繊維補強土の力学的安定性 鈴木貴智、宮崎智行
路面の反発係数測定法 大和田 佑
路面テクスチャーと歩行性評価 ―特に歩道について―
松田大輝
セグメント舗装に用いる強化ジオテキスタイルの耐久性評価
鈴木辰一、樋口善元

■ 構造工学第二研究室 (柳沼善明 教授).....

超軽量コンクリートを用いたT形はりの非線形FEM解析
藤咲典善
人工ゼオライトによる生活排水の浄化 向山 悠

■ 道路交通研究室 (安井一彦 専任講師).....

T型交差点における飽和交通流率に関する研究
加藤 翼、安部美奈子【森田緯之】
車両挙動からみた全赤時間の評価に関する研究
八谷清彦、花岡憲治
歩行者優先信号制御の導入効果に関する研究 大槻裕治
踏切での車両挙動と制御方法に関する研究
永井有香、皆川 崇
千葉県交通事故対策に関する研究 加藤栄太郎、中原修平
首都高速道路の実勢速度における幾何構造からの影響要因に関
する研究 田中雅人、芹澤友也【森田緯之】

■ 水環境システム研究室 (吉川勝秀 教授).....

川からの都市再生に関する研究
―典型的な都市河川・渋谷川と古川を例に― 岡本翔悟
パブリック・アクセスおよび親水性向上による東京湾再生の研
究 崎山 崇
日本橋川再生に関する研究
―水循環および沿川空間改善の検討― 末松央行

研究業績

掲載誌・出版元	題目・作品名・書名	教員名など	発表年月
---------	-----------	-------	------

交通景観研究室（天野光一 教授・岸上明子 助手）

■著書

共立出版	交通バリアフリーの実際	高田邦道編著 天野光一 他	06年1月
------	-------------	------------------	-------

■査読論文

The 12th REAAA Conference, CD-ROM	DEVELOPMENT OF AESTHETIC ALMINUM BARRIERS (BRIDGE RAIL TYPE) IN JAPAN	Noboru Ito Koichi Amano Kimikazu Yokoyama Kazuhoko Ando Satoshi Mikami	06年11月
景観・デザイン研究論文集 No. 1 pp. 7-13	鋼製車両用橋梁用防護柵のデザインと開発	伊藤 登 天野光一 横山公一 山口 智 柴田康博	06年12月

■口頭発表

第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集	西洋風景画に見る河川景観の特徴	青木一史 天野光一 岸上明子	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集	観光案内本からみた近代箱根の変遷	藤野公尋 天野光一 岸上明子	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集	エキナカ空間における利用者の行動特性に関する研究	松村雄喜 天野光一 岸上明子	06年11月

デザイン研究室（伊澤 岬 教授・江守 央 助手）

■著書

共立出版	交通バリアフリーの実際 伊澤：第3章 交通バリアフリー空間の設計とデザイン執筆 江守：第6章3節 バリアフリー計画の事例 八千代市執筆	高田邦道編著 伊澤 岬 江守 央 他	06年1月
------	---	--------------------------	-------

■査読論文

日本雪工学会誌 VOL. 22 No. 3 pp. 41-49	雪国北海道における「坂のまち」の観光ユニバーサルデザイン—函館と小樽の比較から—	伊澤 岬 江守 央 横山 哲 大島淳之	06年7月
---------------------------------	--	------------------------	-------

■口頭発表

第9回日本福祉のまちづくり学会全国大会	市民合意形成にむけた視覚障がい者と健常者の共用型模型に関する基礎的研究	江守 央 伊澤 岬 横山 哲	06年8月
第33回土木計画学研究発表会（春大会）	坂のまちにおける観光ユニバーサルデザインの分析方法—京都と小樽の比較から—	伊澤 岬 大島淳之 江守 央 横山 哲	06年6月
第34回土木計画学研究発表会（秋大会）	坂のまちにおける観光ユニバーサルデザインの分析方法—2—雪国北海道の函館と小樽の比較—	大島淳之 伊澤 岬 江守 央 横山 哲	06年12月
第2回景観・デザイン研究発表会	地形に読む都市・境内・キャンパス—分析方法と設計への応用—	伊澤 岬 江守 央	06年12月
第2回景観・デザイン研究発表会 ポスター発表	日本大学社会交通工学科におけるデザイン製図教育の応用—中部地方建設局における景観設計基礎研修—	伊澤 岬 江守 央	06年12月

都市環境計画研究室（伊東 孝 教授）

■著書

長岡まつり協議会・(株)文藝春秋	長岡大花火 祈り	伊東 孝 他	06年6月
------------------	----------	--------	-------

■査読論文

土木史研究論文集 Vol. 25 pp. 27-39	明治期における東京の鉄製道路橋と技術者群像—倉田吉嗣と金井彦三郎に焦点をあてて—	伊東 孝	06年6月
土木史研究論文集 Vol.25 pp. 99-116	東京奥多摩町・青梅街道の昭和前期における橋梁の進展に関する研究	紅林章央 前田研一 伊東 孝	06年6月

■口頭発表

第33回土木学会関東支部技術研究発表会	震災に備えた小規模公園の新たな利活用について —東京都台東区を事例に—	石井克英 伊東 孝 野水雅之	06年3月
第33回土木学会関東支部技術研究発表会	古民家・空き家の福祉施設としての利活用 —「鞆の浦・さくらホーム」を事例として—	丸山宗徳 伊東 孝 野水雅之	06年3月
第33回土木学会関東支部技術研究発表会	近代化遺産の保全と利活用に対するNPOの役割 —旧国鉄土幌線を事例として—	神辺晴美 伊東 孝	06年3月
第33回土木学会関東支部技術研究発表会	「ご当地検定」に関する一考察	小林宏典 伊東 孝 野水雅之	06年3月
第33回土木学会関東支部技術研究発表会	戦後日本の土木技術者八十島義之助像 —『八十島義之助文庫』『鉄道分野』に焦点をあてて—	西塚泰道 伊東 孝	06年3月
第33回土木学会関東支部技術研究発表会	拓本調査にもとづく神社と鍛冶屋町の関係分析 —広島県鞆の浦の小島神社を事例にして—	藤山直也 堀川洋子 野水雅之 伊東 孝	06年3月
第33回土木学会関東支部技術研究発表会	山形県「坂田・飽海地区」における左官の変遷調査	後藤主良 堀川洋子 野水雅之 伊東 孝	06年3月
第33回土木学会関東支部技術研究発表会	「勝岡橋が再び開くこと」の経済価値分析	片桐隆晴 伊東 孝	06年3月
第33回土木学会関東支部技術研究発表会	中国広西チワン族自治区の風雨橋	吉田全克 伊東 孝 野水雅之 金 哲錫	06年3月
第33回土木学会関東支部技術研究発表会	中国東北地方の近代土木遺産の利活用に関する研究 —長春市淨月潭に焦点をあてて—	金 哲錫 堀川洋子 鶴岡智史 伊東 孝	06年3月

■その他（報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等）

科研費研究成果報告書〔基盤研究B〕	土木史研究におけるオーラルヒストリー手法の活用とその意義 —高速道路に焦点をあてて— 総括編	伊東 孝(研究代表者)	06年3月
科研費研究成果報告書〔基盤研究B〕	土木史研究におけるオーラルヒストリー手法の活用とその意義 —高速道路に焦点をあてて— 実践編	高橋国一郎 伊東 孝(研究代表者)	06年3月
科研費研究成果報告書〔基盤研究B〕	土木史研究におけるオーラルヒストリー手法の活用とその意義 —高速道路に焦点をあてて— 実践編	井上 孝 伊東 孝(研究代表者)	06年3月
科研費研究成果報告書〔基盤研究B〕	土木史研究におけるオーラルヒストリー手法の活用とその意義 —高速道路に焦点をあてて— 実践編	山根 孟 伊東 孝(研究代表者)	06年3月
科研費研究成果報告書〔基盤研究B〕	土木史研究におけるオーラルヒストリー手法の活用とその意義 —高速道路に焦点をあてて— ワン・デイ・セミナー「オーラル・ヒストリーの魅力：声の記録とメッセージ」	伊東 孝(研究代表者)	06年3月
日本大学理工学部社会交通工学科	土木史研究におけるオーラルヒストリー手法の活用とその意義 —高速道路に焦点をあてて— 姉妹版	伊東 孝(研究代表者) 武部健一	06年3月
神奈川東海道ルネッサンス推進協議会	江戸時代の道づくり 神奈川県東海道	伊東 孝 他	06年5月
建築とまちづくり No. 348 pp. 10-14	登録土木遺産の現状と歴史遺産を生かしたまちづくり	伊東 孝	06年9月
土木施工 Vol. 47-12 pp. 4-9	近代土木遺産の活かし方	伊東 孝	06年12月
CE建設業界 Vol. 55-1 pp. 8-12	袋澗－鯉漁のインフラ施設	伊東 孝 西山芳一(写真)	06年1月
CE建設業界 Vol. 55-2 pp. 8-12	餘部橋梁 —百寿を目前に引退？—	伊東 孝 西山芳一(写真)	06年2月
CE建設業界 Vol. 55-3 pp. 8-12	烏山頭ダム —日台親善の礎—	伊東 孝 西山芳一(写真)	06年3月
CE建設業界 Vol. 55-4 pp. 8-12	高千穂線 —廃止になった未完プロジェクト？—	伊東 孝 西山芳一(写真)	06年4月
CE建設業界 Vol. 55-5 pp. 8-12	愛媛の装飾橋梁	伊東 孝 西山芳一(写真)	06年5月
CE建設業界 Vol. 55-6 pp. 8-12	郡築三番町樋門 —国内最大規模の石造多連式アーチ樋門—	伊東 孝 西山芳一(写真)	06年6月
CE建設業界 Vol. 55-7 pp. 8-12	那須疏水 —地下水をも涵養—	伊東 孝 西山芳一(写真)	06年7月
CE建設業界 Vol. 55-8 pp. 8-12	明治橋 —現存最古の鉄桁橋—	伊東 孝 西山芳一(写真)	06年8月
CE建設業界 Vol. 55-9 pp. 8-12	旧狩勝線の大築堤 —三大鉄道遺産のひとつ—	伊東 孝 西山芳一(写真)	06年9月
CE建設業界 Vol. 55-10 pp. 8-12	鞆の浦 —危機に瀕する世界遺産—	伊東 孝 西山芳一(写真)	06年10月
CE建設業界 Vol. 55-11 pp. 8-12	元禄潜穴・明治潜穴・吉田川サイフォン —沼の水田化二百六十年—	伊東 孝 西山芳一(写真)	06年11月

CE建設業界 Vol. 55-12 pp. 8-12	榛名山麓巨石堰堤群 ―利根川改修の一環工事―	伊東 孝 西山芳一 (写真)	06年12月
読売新聞	勝関橋あげてゴジラが通る	伊東 孝	06年1月20日
毎日新聞	勝関橋 開いてイベントを	伊東 孝	06年1月26日
読売新聞	勝関橋 ハの字封印35年	伊東 孝	06年2月20日
神戸新聞	県と市、道路計画を優先／「平木橋」移設保存へ／研究者の声届かず	伊東 孝	06年2月24日
朝日新聞	ひらけ！ 勝関橋	伊東 孝	06年4月15日
毎日新聞	ヘリテージング100選 近代歴史遺産の楽しみ	伊東 孝 他	06年6月22日
日刊建設工業新聞	土木史研究オーラルヒストリー	伊東 孝	06年10月2日
東京新聞	開く“東京の夢”／勝関橋上がれ！！	伊東 孝	06年10月11日
日本水道新聞	横浜で水のおいしさPR	伊東 孝	06年11月27日
水道産業新聞	横浜水道の歴史再認識 土木遺産認定で授与式	伊東 孝	06年11月30日
毎日新聞	ヘリテージング100選／「門司港レトロ」など選出	伊東 孝 他	06年11月16日
毎日新聞	近代遺産を楽しもう	伊東 孝 他	06年11月16日
毎日新聞	ヘリテージング100選	伊東 孝 他	06年11月16日
ムーンプレス	『閉じられたままの勝関橋 その造形と情景』『勝関橋』の縁起とその周辺	伊東 孝(監修)	06年7月
理工研 News	特別推進研究B 中国東北地方（旧満州）の近代土木遺産に関する日中共同調査研究 ―吉林省を中心として―	伊東 孝	06年6月
日本テレビ	おもいっきりテレビ	伊東 孝	06年6月
環境工学研究室（岩井茂雄 教授・吉永聖仁 副手）			
■審査付き論文			
Proceedings of GREEN4 International Symposium on Geotechnics Related to the Environment, pp. 359-368, Taylor & Francis.	Basic study on development of permeable block pavement with purifying layer for polluted rainwater on road	Shigeo Iwai and X.Z. Xi	06年10月
■審査付き報文			
Proceedings of 12th conference of REAAA (The Road Engineering Association of Asia and Australasia) , CD-ROM Version.	A Study on the Texture Evaluation of Porous Pavement by Averaged MPD	Yukiei Masuyama, Noritsugu Kusakari, Junnosuke Katayama, and Shigeo Iwai	06年11月
■口頭発表			
土木学会関東支部年次講演会 CD-ROM版	タイヤ／路面騒音のピーク周波数の変動特性について	牧迫 大 岩井茂雄	06年3月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集（土木系部会） pp. 652-653	自動車排出ガスの影響による路上雨水の汚染実態について	清水一代 岩井茂雄	06年11月
基礎力学研究室（下辺 悟 助教授）			
■口頭発表			
第41回地盤工学研究発表会 平成18年度発表講演集（冊子・CD-ROM版） pp. 239-240 地盤工学会	拡張フォールコーン法における2点法の提案	下辺 悟 小林保彦 竹中 聡 安達哲也	2006年7月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集（土木系部会） pp. 686-687	主働土圧に及ぼす境界条件の影響（アルミニウム棒を用いた模型実験）	江田 仁 山根彬寛 宮森建樹 下辺 悟	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集（土木系部会） pp. 688-689	拡張フォールコーン法の適用性とその工学的応用	下辺 悟 小林保彦 氏平成俊	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集（土木系部会） pp. 690-691	土の含水量に関する ADR ブロープ間の測定誤差について	下辺 悟 竹中 聡 川田靖久 平岡 峻 水上晃嘉 吉田全克	06年11月
交通計画第二研究室（高田邦道 教授・小早川 悟 専任講師）			
■著書			
共立出版	交通バリアフリーの実際	高田邦道編著 小早川悟 他	06年1月

日本交通政策研究会 27ページ	二輪車駐車場整備の可能性に関する研究	高田邦道 編著 清水建造・天野敏明 (05年度研修生) 古賀浩樹(42期一首都 高速道路) 他	06年10月
勁草書房 [日本交通政策研究会研究双書22] 234ページ	都市の物流マネジメント	苦瀬博仁 高田邦道 高橋洋二編著 小早川 悟 他	06年12月
■査読論文／論説／巻頭言			
国土と政策 No. 25 pp. 42-46	新しい時代の道路建設の考え方	高田邦道	06年3月
都市計画論文集 No. 41-1 「都市計画260号」 添付	地区特性に応じた附置義務駐車制度に関する研究 —東京都千代田区大手町・丸の内・有楽町地区を事例として—	古賀浩樹 高田邦道	06年4月
交通工学 Vol. 41 No. 4 pp. 73-83	公共交通システム構築へのタクシー交通の運用のあり方 —無線配車管理システム動態データのGIS処理—	塚田悟之 高田邦道	06年7月
運輸と経済 第66号 第7号 pp. 59-68	英国における混雑課金導入を支える駐車政策	小早川悟・高田邦道	06年7月
第26回交通工学研究会発表論文報告集 pp. 109-112	市民参加型交通安全対策における地方自治体の役割と効用に関する考察	葛山順一 高田邦道	06年10月
■口頭発表			
平成17年度国際交通安全学会研究報告会 於：経団連会館	市民参加型交通安全対策・評価システムの実用化に関する研究 開発	赤羽弘和(千葉工業大 教授) 高田邦道 南部繁樹 他	06年4月
土木学会平成18年度全国大会(Ⅳ-092) 於：立命館大びわこ・くさつキャンパス	大都市周辺スプロール市街地におけるタクシー交通の利用実態	塚田悟之 高田邦道	06年9月
土木学会平成18年度全国大会(Ⅳ-059) 於：立命館大びわこ・くさつキャンパス	公共交通空白地域におけるパーク・アンド・ライドへの転換可能性の検討	五十嵐一智 小早川悟 高田邦道	06年9月
日本交通政策研究会平成18年度研究プロジェクト報告会 於：日本交通政策研究会会議室	二輪車走行空間に関する研究	高田邦道 関根太郎 (理工学部機械工学科 専任講師) 小早川悟 清水健造 他	07年2月
■研究調査報告書			
国土政策研究会	都市と農村漁村の交流による豊かな国づくりをめざして	小浪博英(東京女学館 大教授) 司波 寛(株都市総合 計画 代表取締役) 千賀裕太郎(東京農工 大教授) 高田邦道 他	06年3月
国土交通省『道路政策の質の向上に資する技術的開発』平成17年度採択課題研究報告書 (社)国土政策研究会 82ページ	市民参加型交通安全対策・評価システムの実用化に関する研究 開発	高田邦道(研究代表 者) 南部繁樹 他	06年3月
報告書 (財)国際交通安全学会 81ページ	市民参加型交通安全対策支援システムの面的な交通安全対策への適用 —面的対策効果の把握—	赤羽弘和(千葉工業大 教授) 高田邦道 木戸伴雄 南部繁樹(19期・株ト ラフィックプラス代表 取締役) 葛山順一 他	06年5月
報告書 平成16年度助佐川交通社会財団交通安全対策振興助成(一般研究) 61ページ	二輪車の駐車に関する基礎的研究	高田邦道(研究代表者) 二輪車駐車管理手法 研究会	06年9月
■その他論文／解説／座談会／新聞等			
東京新聞	都心の大規模公共駐車場(コメント)	高田邦道	06年4月
国際交通安全学会 「平成17年度研究調査報告書資料」所収 pp. 1-3	研究プロジェクトの背景と経緯	高田邦道	06年4月
フジテレビ(めざましどようび)	違法駐車のを街を検証(コメント)	高田邦道	06年5月
東京新聞	千葉・鎌ヶ谷で「プロジェクト」 —データ活用・事故減った—	高田邦道	06年5月
日本交通政策研究会 バスシンポジウム「新時代のバス政策に向けて」所収 日交研シリーズB-125 pp. 1-2	『新時代のバス政策に向けて』開会挨拶	高田邦道	
JAMAGAGINE Vol. 49 pp. 18-19	物流施策の交通計画視点からの総合評価及び今後のあり方	高田邦道	06年6月
交通工学 Vol. 41 No. 4	第20回交通工学研究会論文賞表彰『受賞』のことば	高田邦道	06年7月

TBSテレビ（みのもんだ朝ズバッ）	1台1億円はムダ？ 駐車場に300億円（コメント）	高田邦道	06年12月
読売新聞	交通事故「ヒヤリ」地図―千葉県3市で作成	高田邦道	06年12月
運輸交通計画研究室（轟 朝幸 助教授）			
■著書			
共立出版	交通バリアフリーの実際	高田邦道編著 轟 朝幸 他	06年1月
■査読論文			
日本交通学会2005年度論文集 pp. 151-160	都市鉄道新線整備の遅延による効果損失の影響分析	轟 朝幸 栗野壽一	06年3月
土木計画学研究・講演集 No. 23 No. 3 pp. 763-770	住民参加型コミュニティバス計画のための情報揭示型システムに関する研究	小山 茂 谷口滋一 轟 朝幸 大西貴佳	06年9月
第26回交通工学研究発表会論文集 pp. 201-204	交通アンケート調査における郵送回収方式とWeb回収方式の比較分析	須永貴之 轟 朝幸	06年10月
■口頭発表			
J-RAIL 2005 鉄道技術連合シンポジウム pp. 143-146	列車車両の混雑情報提供による旅客行動の分析	松田博和 轟 朝幸	06年1月
ATRS2006, Nagoya (CD-ROM) CD-162	AN ANALYSIS OF INTERNATIONAL HUB AIRPORT COMPETITION IN JAPAN	Taro Aratani Tomoyuki Todoroki	06年5月
土木計画学研究・講演集 Vol. 33 CD-167	公共交通情報提供システムの検索ログデータを利用したバス路線計画方法	鈴木孝幸 轟 朝幸	06年6月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集（都市・交通計画部会） pp. 450-451	旅客機の中・小型化による運航効率の向上の分析	角田 健 轟 朝幸	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集（都市・交通計画部会） pp. 442-443	乗り換え検索ログの交通計画への活用に関する研究	大西貴佳 轟 朝幸	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集（都市・交通計画部会） pp. 448-449	路上駐車発生による社会的費用の計測 ―バスと一般車への影響分析―	村川貴紀 轟 朝幸 松本修一	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集（都市・交通計画部会） pp. 480-481	駅空間再整備による居住地選択における駅選択要因の影響分析	阿部光治 轟 朝幸	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集（都市・交通計画部会） pp. 486-487	わが国の国際拠点空港競合の実態分析	荒谷太郎 轟 朝幸	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集（都市・交通計画部会） pp. 484-485	「さっぽろ・えきバス・ナビ」における検索ログデータを利用したバス路線計画方法	鈴木孝幸 轟 朝幸	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集（都市・交通計画部会） pp. 482-483	路面電車における混空情報提供社会実験	松田博和 轟 朝幸 松本修一 伊藤健史	06年11月
土木計画学研究・講演集 Vol. 34 CD-319	東葉高速鉄道の開業遅延による効果損失の影響分析	栗野壽一 轟 朝幸	06年12月
情報工学研究室（中山晴幸 専任講師）			
■口頭発表			
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集 pp. 492-493	ドライバーの運転姿勢による運転疲労検知	中山晴幸 中城拓也 鈴木健之	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集 pp. 494-495	運転疲労検知システムの実証実験	中山晴幸 矢野 熱	06年11月
■その他（報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等）			
財全日本交通安全協会	人に優しい自転車の乗り方 DVD		06年11月
交通システム研究室（福田 敦 教授・伊東英幸 助手）			
■著書			
共立出版	交通バリアフリーの実際（第5章）	高田邦道編著 福田 敦 他	06年1月
■査読論文			
The Journal of Transportation Research Record, 85th Annual Meeting, Washington, D.C., January 2006 paper No. 06-1528	Carsharing and Station Cars in Asia: An Overview of Japan and Singapore.	Matthew J. Barth, Susan Shaheen, Tuenjai Fukuda and Atsushi Fukuda	06年1月

国際交通安全学会誌 Vol. 31 No. 1 pp. 46-55	自動車からの排気ガス予測の現状と課題	前山徳久 白川泰樹 椿 貴博 福田 敦	06年6月
土木計画学研究・論文集 Vol. 23 No. 4 pp. 811-818	Introduction of Signal Control Strategy for Nearside Bus Stop to Improve Bus Operation along Two-lane Arterial	Thaned Satiennam, Atsushi Fukuda, Toshiaki Muroi	06年9月
International Symposium on Lowland Technology pp. 567-572	Assessment of Artificial Reproduction Environment for Forest Green Treefrog on Nikko-Utsunomiya Road Using Habitat Evaluation Procedure	Hideyuki Ito, Atsushi Fukuda	06年9月
IATSS Research, Journal of International Associational of Traffic and Safety Sciences Vol. 30 No. 2 pp. 59-69	A Study on the Introduction of Bus Rapid Transit System in Asian Developing Cities — A Case Study on Bangkok Metropolitan Administration Project —	Thaned Satiennam, Atsushi Fukuda, Ryosuke Oshima	06年10月
Proceedings of the 3rd National Transport Conference	Motorcycle Accidents in Thailand: Policy to Practice	Tuenjai Fukuda, Chaiwut Kanjanasantisuk, Tomomi Sato, Atsushi Fukuda	06年11月
Proceedings of the 3rd National Transport Conference	Road Traffic Accidents and Traffic Safety Education in Japan	Tuenjai Fukuda, Makoto Okamura, Atsushi Fukuda, Yumiko Nagai	06年11月
■口頭発表			
Proceedings of the Technology and Innovation for Sustainable Development Conference	Possible Solutions to Reduce Level of Carbon Dioxide Emissions from Transport Sector in Thailand	Padet Praditphet, Daniel J. Watts, Tuenjai Fukuda	06年1月
Proceedings of the Technology and Innovation for Sustainable Development Conference	Thailand Road Safety and Its Empirical Study on Black Spot Identification	Tusanee Sinlapabutra Tuenjai Fukuda, Kriangdej Juntrawong	06年1月
第33回土木計画学研究発表会（春大会）	那覇市中心市街地活性化のための国際通りへのトランジットモール導入の取り組み	福田 敦 比嘉 司 金城一也 梅原 隼	06年6月
第33回土木計画学研究発表会（春大会）	交通シミュレーションを活用したバス優先信号制御導入効果の評価に関する研究	室井寿明 福田 敦 Thaned Satiennam	06年6月
第33回土木計画学研究発表会（春大会）	交通シミュレーションを活用した緊急車両優先制御方式の検討	石坂哲宏 福田 敦	06年6月
第33回土木計画学研究発表会（春大会）	Person Trip Data in Bangkok & Future Traffic Data Development Perspective in Developing Countries	Tuenjai Fukuda, Atsushi Fukuda, Thaned Satiennam, Ryosuke Oshima, Tomonobu Inokuchi	06年6月
Proceedings of the 8th International Summer Symposium, JSCE	Evaluation of TOD Policy Application to Support BRT by Applying Combined Trip Distribution, Modal Split and Traffic Assignment Equilibrium Model: A Case Study of BRT Project in Bangkok	Thaned Satiennam, Atsushi Fukuda, Yuichiro Kaneko	06年7月
Proceedings of the 8th International Summer Symposium, Japan Society of Civil Engineers	Raising Public Awareness on Road Safety to Stimulate Public Participation: A Case Study of Udonthani, Thailand,	Tuenjai Fukuda, Makoto Okamura, Atsushi Fukuda	06年7月
Proceedings of the 8th International Summer Symposium, Japan Society of Civil Engineers	Promoting the Use of Sustainable Transport Mode in Bangkok Metropolitan	Tuenjai Fukuda, Surawongs Swangbamrung, Atsushi Fukuda	06年7月
Proceedings of the International Conference on Road Safety in Developing Countries, Bangladesh University of Engineering and Technology, Dhaka, Bangladesh	Motorcycle Accidents and Its Countermeasures in Thailand	Tuenjai Fukuda	06年8月
Proceedings of the International Conference on Road Safety in Developing Countries, Bangladesh University of Engineering and Technology, Dhaka, Bangladesh	Current Situation of Road Traffic Accidents and Traffic Safety Education in Japan	Atsushi Fukuda, Tuenjai Fukuda	06年8月
2006年度第5回環境アセスメント学会論文発表会	複数種のSIモデルを用いた環境評価に関する提案	伊東英幸 藤原真也 福田 敦	06年9月
土木学会第61回年次学術講演会講演概要集	ニホンアカガエルのSIモデル構築に関する研究集	伊東英幸 福田 敦	06年9月
土木学会第61回年次学術講演会講演概要集	タイ・ウドンタニ市におけるヒヤリ地図作成の可能性	岡村 誠 福田 敦 福田トウエンチャイ	06年9月

IATSS Research Project - H857. Keynote Speech of the 12th International Student Seminar on Transport Research (ISSOT). Chulalongkorn University, Thailand	In Pursuit of Safety and Quality of Lives of Mankind	Tuenjai Fukuda	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集（都市交通計画部会）	米国カリフォルニア州のミチゲーションパンキングの運用実態に関する調査報告 ―（その1）サンタローザ市のバンクサイトを対象として―	伊東英幸 横内憲久 岡田智秀 福田 敦	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集（都市交通計画部会）	道路交通情報の収集精度を考慮したプローブカー必要台数の検討	石坂哲宏 福田 敦	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集（都市交通計画部会）	中国の都市におけるCO ₂ の排出規制の下での交通成長の可能を検討するためのデルの提案	ウティクル・ゴジャシ 井口智庸 福田 敦 金子雄一郎	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集（都市交通計画部会）	マルチエージェントの考えに基づく車車間通信による災害時の情報通信ネットワーク構築とその応用に関する研究	室井寿明 福田 敦	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集（都市交通計画部会）	BRT導入と道路整備のシミュレーションによる評価に関する課題について ―タイ、バンコクBMA BRT North Line計画案を事例として―	金子翔一 福田 敦 Thaned Satiennam 大島良輔	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集（都市交通計画部会）	タイ・バンコクにおけるパラトランジットの利用実態に関する研究	萩田基司 福田 敦 大島良輔	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集（都市交通計画部会）	沿道大気汚染物質排出規制を伴う場合の可能交通量を推計するためのモデルの提案	井口智庸 ウティクル・ゴジャシ 福田 敦 金子雄一郎	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集（都市交通計画部会）	タイ国コンケン市におけるコンケン大学との共同ワークショップの開催：コンケン市の交通問題の現状	平野正偉 川上貴章 谷 亮太 鈴木正樹 島崎 泰 福田 敦 福田トウェンチャイ 岡村 誠 佐藤朋美	06年11月
Proceedings of the 3rd National Transport Conference	Strategies Enhancing Bus Rapid Transit Development and Evaluation of its Impact in a Case Study on Bangkok	Atsushi Fukuda, Thaned Satiennam, Ryosuke Oshima	06年11月
第34回土木計画学研究発表会（秋大会）	タイにおいて収集したヒヤリハットデータに基づくオートバイ事故の分析	岡村 誠 福田トウェンチャイ 福田 敦 佐藤朋美	06年12月
第34回土木計画学研究発表会（秋大会）	新たな公共交通機関導入による将来交通行動への影響分析に関する研究	井口智庸 福田 敦 梅原 隼 大島良輔	06年12月
■その他（報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等）			
財国際交通安全学会	報告書：「タイにおける交通安全施策への支援」		06年3月
社海外運輸協力協会 日本大学理工学部社会交通工学科交通システム研究室（財日本気象協会）	報告書：国際協力銀行委託調査「タイ王国円借款の環境改善効果評価のための委託調査報告書」		06年6月
Monthly The Safety Japan 398号 本田技研工業株式会社	記事：「OPINION 私はこう考える」		06年5月
土木施工 2006年 11月号 Vol.47 No.11 山海堂	特集立体交差によるまちづくり「立体交差の可能性と課題 都市交通体系の視点から」		06年11月
交通環境研究室（藤井敬宏 教授）			
■著書			
共立出版	交通バリアフリーの実際	高田邦道編著 藤井敬宏 他	06年1月
■査読論文			
社交通工学研究会 第26回交通工学研究発表会論文報告集 pp. 193-196	自動車NOx・PM法、ディーゼル車走行規制の効果とトラック事業者への影響に関する研究	藤井敬宏 岡部 順 景山あずさ	06年10月
■口頭発表			
第32回土木計画学研究発表会講演集	バリアフリーにおける市民の主体的活動の継続に関する評価	金子俊之 伊藤将司 原田正隆 藤井敬宏 山岸靖典	06年5月
平成17年度学術フロンティア推進事業 環境・防災都市に関する研究 研究報告書第7号 pp. 149-153	自動車NOx・PM法およびディーゼル車走行規制による効果と影響		06年7月
日本福祉のまちづくり学会 第9回全国大会概要集 pp. 321-324	船橋市における防災対策としての福祉避難所の活用に関する研究	藤井敬宏 小林 繁	06年8月

日本福祉のまちづくり学会、第9回全国大会 概要集 pp. 337-340	3次元画像解析ソフトの歩行空間評価への適用に関する研究	藤井敬宏 齋藤由中	06年8月
日本福祉のまちづくり学会、第9回全国大会 概要集 pp. 469-472	市原市における交通バリアフリーの市民活動に関する研究	藤井敬宏 山岸靖典	06年8月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文 文集	狛江市まちづくり市民会議による交通改善の取り組みについて	藤井敬宏 岡部 順 山岸弘明 ゼミナール生	06年11月
■論説			
オフィスジャパン 2006 AUTUMN pp. 42-45	「都心部のロジスティクス構築どうする？」都心部における物流&運送の課題と解決に向けて	藤井敬宏	06年10月
構造工学第一研究室（星埜正明 教授）			
■著書			
Springer Verlag, Berlin	Handbuch Brücken - entwerfen, konstruieren, berechnen, bauen und erhalten	Hrsg. von G.Mehlhorn (分担執筆)	06年12月
■査読論文			
土木学会論文集、No. 808/I-74、pp. 33-45	走行振動荷重を受けるRCはり・床版の耐力および動的影響に関する実験研究	阿部 忠 木田哲量 星埜正明 加藤清志 徐 銘謙	06年1月
■口頭発表			
第61回土木学会年次学術講演会	ゴムラテックス混入モルタルを合成した鋼板の基礎実験研究	永生洋樹 星埜正明 大垣賀津雄 杉浦 江 奥田久志	06年9月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文 文集	ゴムラテックス合成鋼床版に関する基礎的研究	蒔田 睦 大垣賀津雄 杉浦 江 星埜正明	06年11月
地盤工学研究室（巻内勝彦 教授・峯岸邦夫 助手）			
■査読論文			
GEOSYNTHETICS (Proceedings of the 8th International Conference on Geosynthetics)	Strength-deformation characteristics of lightweight geomaterial mixed with EPS beads	峯岸邦夫 巻内勝彦	06年9月
GEOSYNTHETICS (Proceedings of the 8th International Conference on Geosynthetics)	The friction characteristic between lightweight soil materials with mixing foamed scrap glass and application on the reinforced soils	久保哲也 (OB) 巻内勝彦 峯岸邦夫 横田善弘	06年9月
GEOSYNTHETICS (Proceedings of the 8th International Conference on Geosynthetics)	Basic characteristics of the hose-like textiles filled with the various lightweight soil	倉田正博 峯岸邦夫 他2名	06年9月
国際ジオシンセティックス学会日本支部 ジ オシンセティックス論文集 第21巻	軽量土を充填したホース状織物の基本特性について（その2）	倉田正博 峯岸邦夫 他2名	06年12月
■口頭発表			
(社)地盤工学会 第41回地盤工学研究発表会講演 文集	枝付ショートファイバー混合補強土の力学特性に及ぼす補強材の影響	峯岸邦夫 巻内勝彦	06年7月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文 文集	発泡ビーズ混入軽量化地盤材料の繰返し応力下の変形特性および圧密特性	巻内勝彦 峯岸邦夫 山中光一	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文 文集	ジオシンセティックスセルの補強効果に及ぼすセル形状の影響	巻内勝彦 峯岸邦夫 海老名翔	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文 文集	軽量地盤材料現場発泡硬質ウレタンフォームの力学特性に及ぼす試料状態の影響	巻内勝彦 峯岸邦夫 薄葉有矢	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文 文集	インターロッキングブロック舗装クッション層下の強化ジオテキスタイルの性能評価	巻内勝彦 峯岸邦夫 鈴木辰一 樋口善元	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文 文集	発泡廃ガラスを混入した関東ロームの締固め特性	巻内勝彦 峯岸邦夫 中原季彦	06年11月
構造工学第二研究室（柳沼善明 教授・斉藤準平 助手）			
■査読論文			
第15回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集 プレストレスト コンクリート技術協会 pp. 329-334	外ケーブル方式PC箱桁橋の突起定着部の破壊耐力	柳沼善明	06年10月

■口頭発表

第50回日本大学理工学部学術講演会 文集（土木系部会） pp. 674-675	講演論	超軽量コンクリートを用いたRCはりの非線形FEM解析	藤咲典善 齊藤準平 柳沼善明	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 文集（土木系部会） pp. 670-671	講演論	人工ゼオライトによる生活排水の浄化	向山 悠 柳沼善明	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 文集（土木系部会） pp. 676-677	講演論	保水性コンクリートに関する基礎実験	渡辺晋也 柳沼善明	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 文集（土木系部会） pp. 672-673	講演論	超軽量コンクリートを用いたPRCはりのせん断耐力	富田洋治郎 井口 淳 齊藤準平 柳沼善明	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 文集（土木系部会） pp. 678-679	講演論	外ケーブル方式箱桁橋梁における突起定着部の破壊に関する研究	長谷川晃久 柳沼善明	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 文集（土木系部会） pp. 668-669	講演論	洪水による鉄道橋コンクリート橋脚の倒壊に関する一考察	齊藤準平 石野和男 柳沼善明	06年11月
第39回日本大学生産工学部学術講演会講演概要 （土木部会） pp. 13-16		超軽量コンクリートを用いたPRCはりの非線形FEM解析	藤咲典善 齊藤準平 柳沼善明	06年12月
第39回日本大学生産工学部学術講演会講演概要 （土木部会） pp. 135-136		生活排水に対する人工ゼオライトの浄化作用	向山 悠 柳沼善明	06年12月
第39回日本大学生産工学部学術講演会講演概要 （土木部会） pp. 39-40		人工ゼオライトを用いた保水性コンクリートの特性	渡辺晋也 柳沼善明	06年12月
第39回日本大学生産工学部学術講演会講演概要 （土木部会） pp. 91-94		洪水による鉄道橋コンクリート橋脚の倒壊	齊藤準平 石野和男 柳沼善明	06年12月
第49回日本大学工学部学術研究報告会講演要 旨集（土木工学部会） pp. 129-130		人工ゼオライトを用いた生活排水汚染の浄化	柳沼善明 向山 悠	06年12月
第49回日本大学工学部学術研究報告会講演要 旨集（土木工学部会） pp. 131-134		超軽量コンクリートを用いたT形はりの非線形FEM解析	柳沼善明 井口 淳 藤咲典善 富田洋治郎 齊藤準平	06年12月
第49回日本大学工学部学術研究報告会講演要 旨集（土木工学部会） pp. 135-138		洪水による鉄道橋コンクリート橋脚の倒壊と設計示方書の変遷	齊藤準平 石野和男 柳沼善明	06年12月

道路交通研究室（安井一彦 専任講師）

■著書

共立出版	交通バリアフリーの実際	高田邦道編著 安井一彦 他	06年1月
------	-------------	------------------	-------

■査読論文

第26回交通工学研究発表会論文集 pp. 81-84 (社)交通工学研究会	クリアランス時間の適正化に伴う車両挙動の変化に関する研究	安井一彦 小貝真史	06年11月
第26回交通工学研究発表会論文集 pp. 89-92 (社)交通工学研究会	歩行者感応制御の高度化実証実験	岩崎茂久 風間 洋 安井一彦 新倉 聡	06年11月
雑誌 交通工学 (社)交通工学研究会 pp. 10-17 第41巻 2号	クリアランス時間の適正化と車両挙動の変化について	安井一彦 小貝真史	06年3月

■口頭発表

第50回日本大学理工学部学術講演会 文集	講演論	歩行者優先信号制御の導入効果に関する研究	大槻裕治 安井一彦	06年11月
-------------------------	-----	----------------------	-----------	--------

■その他（報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等）

読売新聞	特集「渋滞踏切」	安井一彦	06年12月
------	----------	------	--------

水環境システム研究室（吉川勝秀 教授）

■著書

山海堂	生態学的な斜面・のり面工法 ―これからの緑化技術―	吉川勝秀編著	06年7月
独立行政法人 農業・食品産業技術研究機構・ 農村工学研究所	農における自然との共生Ⅱ	吉川勝秀(共著) 農林水産省農林水産 技術会議 「自然共生」プロ研究 推進事務局編	06年12月

■査読論文

建設マネジメント研究論文集 Vol. 13 pp. 213-227	自然と共生する流域圏・都市再生シナリオに関する流域圏的研究	吉川勝秀	06年12月
建設マネジメント研究論文集 Vol. 13 pp. 371-1376	都市化に伴う首都圏の水と緑の環境インフラの変化に関する流域圏の考察	吉川勝秀 本永良樹	06年12月
安全問題研究論文集 Vol. 11 pp. 61-66	河川災害の想定外を想定内にするための安全・防災教育	福成孝三 吉川勝秀 田中長光 白井勝二	06年11月
地下水地盤環境に関するシンポジウム2006発表論文集 pp. 61-68	浸透流解析のためのモデル設定についての考察	瀬川明久 港高 学 吉川勝秀	06年11月
地下水地盤環境に関するシンポジウム2006発表論文集 pp. 53-60	樋門周辺の沈下と変状の経時的挙動について	瀬川明久 港高 学 吉川勝秀	06年11月
Proceedings of the 3rd APHW Conference, CD-R 論文集	On the Regeneration of River Basin Zones and Urban Areas in Accord with Nature in the Tokyo Metropolitan Area —A Study of river-based urban regeneration, focusing on the area around the Japanese capital—	Katsuhide Yoshikawa Y.Motonaga A.Toda M.Hayashi	06年10月
Proceedings of the 3rd APHW Conference, CD-R 論文集	Waterfront Restoration of the Chao Phraya River — On the Urban Embankment from the View of Water-Amenity—	Katsuhide Yoshikawa Yoshiki Motonaga	06年10月
Proceedings of the 3rd APHW Conference, CD-R 論文集	Post-Evaluative Study of Flood Damage Mitigation Measures in the Basin of Gentle-Flowing Rivers on Low-Lying Plains	Katsuhide Yoshikawa Yoshiki Motonaga	06年10月
水文・水資源学会誌（原著論文） 水文・水資源学会誌 第19巻第4号 pp. 267-279	低平地緩流河川流域の治水に関する事後評価的考察	吉川勝秀 本永良樹	06年7月

■口頭発表

第61回土木学会年次学術講演会概要集Ⅱ pp. 25-26	低湿地堤防の樋門に関わる災害と恒久的安全対策に関する一考察	瀬川明久 港高 学 掛村拓史 吉川勝秀	06年9月
第61回土木学会年次学術講演会概要集Ⅱ pp. 21-22	低湿地堤防における樋門周辺の沈下挙動解析	瀬川明久 掛村拓史 港高 学 吉川勝秀	06年9月
第61回土木学会年次学術講演会概要集Ⅱ pp. 19-20	低湿地堤防における漏水災害に関する考察	瀬川明久 港高学 吉川勝秀	06年9月
第61回土木学会年次学術講演会概要集Ⅱ pp. 17-18	低湿地堤防の現地漏水実験結果に関する一考察	瀬川明久 児玉順一 港高 学 吉川勝秀	06年9月
第61回土木学会年次学術講演会概要集Ⅱ pp. 401-402	首都圏における水面と緑の変遷と現状について	本永良樹 吉川勝秀	06年9月
第61回土木学会年次学術講演会概要集Ⅱ pp. 327-328	低平地緩流河川流域における総合治水対策の効果に対する考察	吉川勝秀 本永良樹	06年9月
第61回土木学会年次学術講演会概要集 pp. 41-42	都市河川における水辺空間の利用に関する一考察	富田顕嗣 吉川勝秀	06年9月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集 pp. 646-647	印旛沼流域の再生 —流域のモデルによる考察—	吉川勝秀 大関祐次郎	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集 pp. 466-467	川からの都市再生に関する研究 —典型的な都市河川・渋谷川と古川を例に—	吉川勝秀 岡本翔梧	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集 pp. 646-647	親水空間から考える東京湾再生 —沿岸へのアクセス—	吉川勝秀 崎山 崇	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集 pp. 646-647	都市再生を目指した河川空間の再編に関する研究 —日本橋川を事例として—	吉川勝秀 末松央行	06年11月
第50回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集 pp. 646-647	河道における樹木が与える影響	吉川勝秀 桂川晃一	06年11月
アマモサミット・ブレワークショップ2006（第四回 横浜・海の森つくりフォーラム） 海辺の自然再生に取り組んでいる各地の活動を見る pp. 19-20	海辺の自然再生と市民への開放	吉川勝秀 崎山 崇	06年12月

■その他（報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等）

岳人 8月号、No. 710 p. 32-33	癒される水の流れ —心と体の健康を取り戻す、川の効果は医療の現場でも—	吉川勝秀	06年7月
東日本建設業保証株式会社 EAST TIME（東日本保証広報誌） No. 156 pp. 4-6	韓国ソウルの清溪川（チョンゲチョン）再生プロジェクトにみる都市の水辺再生	吉川勝秀	06年7月
UR都市機構 『まち・ルネッサンス』 p. 22	社会的共通資本の充実した都市再生への期待	吉川勝秀	06年6月
法政大学大学院エコ地域デザイン研究所2005年度報告書（文部科学省 学術フロンティア推進事業） pp. 172-178	自然共生型流域圏・都市再生シナリオの研究	吉川勝秀 本永良樹	06年6月

社会的活動

■ 天野光一 教授

静岡県 都市景観賞選考委員
富士市 都市景観審議会 会長
富士宮市 都市景観審議会 会長
伊豆縦貫道路道路空間高度化検討委員会 委員長
相模縦貫道路景観検討委員会 委員
谷和原インターチェンジ歩道橋デザインアドバイス
（財）道路空間高度化機構 道路空間高度化検討委員会 委員
静岡県 公共サイン検討会議 議長
伊豆の道三十選選定会議 議長
土木学会 景観・デザイン委員会 幹事長（2006.6まで）
土木学会 景観・デザイン委員会デザイン賞選考委員会 委員長（2006.7から）

■ 伊澤 岬 教授

八千代市交通バリアフリー基本構想策定協議会 会長
八千代市福祉有償輸送運営協議会 会長
鎌ヶ谷市福祉有償輸送運営協議会 会長
印西市 木下貝層・活用検討委員会 委員
船橋市 京成本線高架下利用検討協議会 委員
国土交通省 道路空間のユニバーサルデザインを考える懇談会 委員
国土交通省 道路空間のユニバーサルデザインを考える懇談会 WG 委員
学生設計優秀作品展委員会 委員
日本福祉のまちづくり学会 幹事
NPO 法人 ネット房総 代表理事
八千代バリアフリーフォーラム 副代表

■ 伊東 孝 教授

文部科学省 文化庁文化審議会 専門委員
国土交通省横浜国道工事事務所・国土技術センター 東海道道
路構造解析調査委員会 委員
東京都 文化財保護審議会 専門委員
埼玉県 文化財保護審議会 専門委員
富山県 文化財保護審議会 専門委員
千代田区 景観まちづくり審議会 委員
千代田区 景観まちづくり重要物件（橋梁）選定検討会 委員長
（社）土木学会 選奨土木遺産選考委員会 委員長
（社）土木学会 関東支部選奨土木遺産選考委員会 委員長
（社）土木学会 土木史研究委員会オーラル・ヒストリー研究小委
員会 小委員長
（社）土木学会 吉野川第十堰技術評価特別委員会景観・土木史的
評価 班長
（社）土木学会 関東支部運営幹事会 幹事
（財）江戸東京博物館 運営委員会企画展示専門部会 委員

川崎市 市民ミュージアム・アドバイザー
全国町並み保存連盟 常任理事
産業考古学会 理事
（社）日本ナショナル・トラスト 評議員
みんなのチエを集めて勝関橋をあげる会 代表
軀まちづくり工房（NPO）顧問
公益信託大成建設自然・歴史環境基金 運営委員

■ 岩井茂雄 教授

国土交通省 関東地方整備局平成18年度建設技術展示館審査委
員会 委員
国土交通省 関東技術事務所総合評価審査分科会 委員
防衛省 横浜防衛施設局入札監視委員会 委員
（独）大学評価・学位授与機構 工学・芸術工学専門委員会 委員
（財）道路保全技術センター 横浜市における舗装のアセットマネ
ジメントシステム検討委員会 委員
（財）機械システム振興協会 鋼床版アスファルト舗装撤去機械シ
ステム分科会 委員長
（社）土木学会 表彰委員会 委員
（社）土木学会 技術功労賞選考委員会 委員長
（社）土木学会 教育企画・人材育成委員会 委員
（社）土木学会 教育企画・人材育成委員会・生涯学習小委員会
委員長
（社）土木学会 舗装工学委員会 委員
（社）土木学会 舗装工学委員会・舗装工学論文編集小委員会
委員長
（社）インターロッキングブロック舗装技術協会 監事
（社）日本石灰協会 石灰安定処理委員会 委員
（株）建設図書 「舗装」編集委員会 副委員長

■ 高田邦道 教授

（社）国土政策研究会 理事
（財）日本交通管理技術協会 理事
（財）国際交通安全学会 顧問
（社）日本都市計画学会 評議員
（社）日本駐車場工学研究会 理事
日本ロジスティックスシステム学会 評議員
（社）国土政策研究会 機関誌「国土と政策」編集長
（社）環境情報科学センター 環境情報科学論文集 査読委員
千葉県警本部 UTMS協議会 会長
警視庁交通部 放置車両確認事務の民間委託に係わる総合評価
一般競争入札審議委員会 特別委員
千葉県企業庁 千葉県幕張新都心地下駐車場指定管理者（候補
者）選定委員会 委員
千代田区（認定）大丸有地区地域ルール策定協議会 会長
千代田区（認定）大丸有地区駐車環境対策協議会 委員
千代田区（認定）大丸有地区地域ルール運営委員会 委員長

渋谷区 渋谷地区駐車場整備地区地域ルール検討会 会長
白井市 都市計画審議会 会長
市川市 交通対策審議会 委員
市川市 交通対策審議会・総合交通計画専門部会 部会長
千葉県 大気環境保全対策専門委員会 委員
国土交通省関東運輸局 関東地方交通審議会 専門委員
東京都環境局 交通需要マネジメント検討会議 委員
鎌ヶ谷市 交通事故半減プロジェクト推進協議会 会長
(社)国土政策研究会 PFI研究会 委員
(財)道路経済研究所 物流施策の交通計画的な視点からの総合評価及び今後のあり方に関する研究会 委員長
日本交通政策研究会 二輪車の走行空間に関する研究 主査
(社)国土政策研究会 市民参加型交通安全対策・評価システムの実用化に関する研究開発(国土交通省採択)委員会 委員長
(社)交通工学研究会 交通工学ハンドブック2008 第19章 主査
(社)交通工学研究会 交通工学ハンドブック2008 第20章 主査

■ 福田 敦 教授

(社)土木学会 技術推進機構 技術者教育プログラム審査委員会 幹事長
(社)土木学会 関東支部 幹事長
(社)土木学会 関東支部 商議員
(社)土木学会 土木計画学研究員会 春大会幹事会 代表幹事
(社)土木学会 技術功労賞選考委員会 委員
(社)土木学会 政策マネジメント研究小委員会 委員
(社)土木学会 土木計画のための態度・行動変容研究小委員会 委員
(社)交通工学研究会 大都市交通問題対策委員会 委員
(社)交通工学研究会 出版委員会新規出版小委員会 委員
(社)交通工学研究会 自主研究委員会研究展開小委員会 委員
(社)交通工学研究会 自主研究ニュータウン交通事後評価委員会 委員
(財)国際交通安全学会 学会誌編集委員会 委員
計画・交通研究会 幹事
日本橋学生工房 アドバイザー
アジア交通学会(EASTS:Japan) 理事
アジア交通学会 国際学術委員会 委員
コンケン大学Sustainable Infrastructure Research and Development Centre (SIRDC) アドバイザー
日本技術者教育認定機構 基準委員会 委員
(独)国際協力機構 都市交通コンテンツ開発支援委員会 委員
(財)運輸政策研究機構・国際問題研究所 途上国道路輸送CO₂排出抑制政策に関する研究会 委員
(財)海外運輸協力協会 アドバイザー
(財)海外運輸協力協会 FutureCDM事業のワーキンググループ(経済産業省委託) 座長
(財)高速道路技術センター 平成18年度首都圏における経路選択情報提供検討委員会(東日本高速道路株、中日本高速道路株委託) 委員

(財)高速道路技術センター 平成18年度横浜支社管内経路選択情報提供検討委員会(中日本高速道路株委託) 委員
八千代市 都市計画審議会 委員
那覇市 トランジットマイル実行委員会幹事会 副幹事長

■ 藤井敬宏 教授

(社)土木学会 技術者資格委員会 委員
千葉県船橋市 都市計画審議会 委員
千葉県市原市 市原市交通網活性化協議会 委員
千葉県市原市 市原市福祉有償運送運営協議会 委員
千葉県習志野市 習志野市福祉有償運送運営協議会 会長
千葉県鎌ヶ谷市 鎌ヶ谷市都市計画道路網策定検討委員会 会長
千葉県柏市 柏市・流山市における省エネルギービジョン策定会議 会長
千葉県柏市 柏市地域公共交通会議 委員
東京都港区 港区交通バリアフリー基本構想策定協議会 会長
(財)道路経済研究所 物流マネジメント検討委員会 委員
三重大学生物資源学部共生環境学科 非常勤講師(道路工学担当)
嘉悦大学経営経済学部経営経済学科 非常勤講師(コミュニティ論担当)

■ 巻内勝彦 教授

経済産業省 日本工業標準調査会(JIS) 土木技術専門委員会 委員
(社)土木学会 ISO対応特別委員会 幹事兼委員
(社)地盤工学会 ISO検討委員会 委員長
(社)地盤工学会 ジオシンセティックス工学委員会 委員
国際ジオシンセティックス学会(IGS)日本支部 副支部長
国際ジオシンセティックス学会(IGS)日本支部 2006国際会議実行委員会 副委員長
国際ジオシンセティックス学会(IGS)日本支部 表彰委員会 委員

■ 柳沼善明 教授

(社)土木学会 材料劣化が生じたコンクリート構造物の構造性能研究小委員会 委員

■ 吉川勝秀 教授

慶応大学大学院 教授(政策・メディア研究科)
京都大学 客員教授(防災研究所)
中央大学大学院理工学研究科 非常勤講師
東京工業大学工学部 非常勤講師
日本学術会議 特任連携 会員
水文・水資源学会 監事
内閣府総合科学技術会議 科学技術予算要求の優勢順位付けに係わる外部専門家
国立環境研究所 地球環境研究総合推進費S-4研究(温暖化の危険な水準及び温室効果ガス安定化レベル検討のための温暖化影響の総合的評価に関する研究) アドバイザリーボード

水辺環境に関する国際情報ネットワーク検討委員会委員（リ
バーフロント整備センター）

斜面・法面工事用仮設設備JIS化原案作成委員会 委員長（日
本規格協会・全国仮設安全事業協同組合）

特定非営利活動法人（NPO）川での福祉・医療・教育研究所
理事長

■ 下辺 悟 助教授

人事院 平成19年度 国家公務員採用Ⅱ種試験（土木） 試験
専門委員

■ 轟 朝幸 助教授

(社)土木学会技術推進機構 実践的ITS研究会研究開発 研究
員

(社)土木学会 土木計画学研究委員会国際交流ネットワーク戦略
研究小委員会 委員

(社)交通工学研究会 大規模ニュータウンの交通システムの事後
評価と改善方策の提言研究会 委員

ATRS航空輸送に関する国際会議 ATRS航空輸送に関する国
際会議実行委員会 委員

計画・交通研究会 事務局次長

国土交通省 航空局 入札監視委員会 委員

国土交通省 東京航空局 入札監視委員会 委員

国土交通省 東京航空局 構内営業予定者選定審査会 委員

国土交通省 四国地方整備局 新四国創造研究会WG 委員

東京都 入札監視委員会 委員

千葉市 建設局 千葉市みちづくり検討会 委員

横浜市 生活交通バス路線運行事業者選定委員会 委員

(株)三菱総合研究所（国土交通省航空局委託） 航空需要予測手
法改善調査検討会 委員

(財)運輸政策研究機構（内閣府沖縄総合事務局委託） 那覇空港
調査検討会 委員

■ 小早川 悟 専任講師

(社)土木学会 土木計画学研究委員会 幹事

(社)土木学会 土木計画学研究学術小委員会 委員

(社)交通工学研究会 平面交差の計画と設計編集小委員会 幹事

(社)交通工学研究会 平面交差の計画と設計計算ソフト小委員会
委員長

(社)日本都市計画学会 情報委員会 委員

■ 安井一彦 専任講師

千葉県警察本部 UTMS推進協議会 幹事長

千葉県警察本部 交通事故調査委員会 委員

千葉県 大規模店舗立地審議会 委員

千葉県 幕張海浜公園（海側）整備研究会 委員

(財)日本交通管理技術協会 非幹線道路における信号制御等の交
通運用のあり方に関する調査研究委員会 委員長

(財)日本交通管理技術協会 貨物輸送における路上駐車対策に関
する調査研究委員会 委員

(財)国際交通安全学会 歩行者の道路横断実態を重視した実用的
な最適信号制御の研究委員会 委員

(財)道路経済研究所 交通流管理の高度化、CO₂削減効果研究会
委員

(社)新交通管理システム協会 交通信号の高度化WG 委員

(財)高速道路調査会 交通工学研究部会 委員

(財)高速道路調査会 交通運用研究委員会 幹事

(社)交通工学研究会 交通工学査読委員会 委員

(社)交通工学研究会 平面交差の計画と設計応用編集小委員会
委員

(社)交通工学研究会 雑誌交通工学編集委員会 委員

(社)交通工学研究会 交通工学ハンドブック改定委員会 委員

(社)交通工学研究会 交通工学研究発表会 査読委員

(社)交通工学研究会 首都高速道路における交通安全対策委員会
委員

■ 伊東英幸 助手

(社)交通工学研究会 自主研究ニュータウン交通事後評価委員会
委員

■ 江守 央 助手

船橋市 京成本線高架下利用検討協議会 オブザーバー

UR ちはら台地区コミュニティバス検討協議会 委員

土木学会高齢者交通研究小委員会 委員

JICE自主研究「市街地における面的バリアフリー状況の評価
手法の開発」検討会 メンバー

日本福祉のまちづくり学会選挙管理委員会 委員

NPO法人 ネット房総 監査

八千代バリアフリーフォーラム 事務局長

■ 岸上明子 助手

(社)土木学会 調査研究部門 景観・デザイン員会 デザイン賞
選考小委員会 幹事

■ 峯岸邦夫 助手

(社)土木学会 技術功労賞選考委員会 幹事

(社)土木学会 教育企画・人材育成委員会 生涯学習小委員会
委員

(社)地盤工学会 事業部出版企画委員会 幹事

(社)地盤工学会 「GIS入門」編集委員会 幹事

(社)地盤工学会 ジオシンセティックス工学委員会 委員

(社)地盤工学会関東支部 会員サービスG 幹事

(社)地盤工学会関東支部 支部研究発表会G 幹事

国際ジオシンセティックス学会日本支部 幹事

国際ジオシンセティックス学会日本支部 行事委員会 委員長

国際ジオシンセティックス学会日本支部 表彰委員会 委員

国際ジオシンセティックス学会日本支部 新技術委員会 委員

国際ジオシンセティックス学会日本支部 新技術委員会軽量土
部会 部会長

学外学術活動

■ 天野光一 教授

講師：道路デザイン講習会

講師：国土交通大学校道路計画講習会

講師：(社)日本造園建設業協会神奈川県支部町並み景観と街路樹セミナー

コメンテータ：第2回土木学会景観・デザイン研究発表会

■ 伊澤 岬 教授

講演：観光のユニバーサルデザインフォーラム in 小樽／「坂のまち小樽の都市景観構造と歴史遺産—立体的観光拠点と街路型観光拠点の視点から—」 2006.2.19

講演：海洋建築工学科特別講義／「社会交通工学科のユニバーサルデザイン教育」 2006.5.13

講演：日本大学春期公開講座／「バリアフリー空間を設計する」 2006.6.28

講師：国土交通省中部地方整備局 環境・景観デザイン研修／「美しい国づくりのための景観設計基礎研修」 2006.6.15

コーディネータ：日本福祉まちづくり学会第9回全国大会パネルディスカッション／「海・島・斜面地を抱えた地域の福祉のまちづくり」 2006.8.27

■ 伊東 孝 教授

パネルディスカッション：日本橋川と常盤橋公園 パネラー／千代田区アダプト公園プロモーションシステム 2006.3.10

現地講師：「伊東孝先生と歩くりバーサイドウォーク」／千代田区アダプト公園プロモーションシステム 2006.5.13

講演：東・東南アジアから日本の都市景観と歴史的まちづくりを考える／都市経営フォーラム 2006.6.15

講演：ベトナムの近代化遺産—橋を中心として／土木の文化財を考える会 2006.6.17

講演：玉川上水の土木遺産としての価値と保存／小平ユネスコ協会 2006.6.25

実行委員会委員：第9回「川の日」ワークショップ／「川の日」ワークショップ実行委員会 2006.7.22、23

講演：近代の産業・土木遺産の見方・楽しみ方 —世田谷と関東近県の事例を中心に—／世田谷社会教育課老人大学 2006.9.12

パネルディスカッション：時代を切り拓く産業観光 パネリスト／全国産業観光フォーラム in 北九州2006実行委員会、全国産業観光推進協議会他 2006.11.16

現地講師：NIKKEI産業遺産ウォーキング大会「首都と橋の歴史」ウォーク／日本経済新聞社 2006.12.16

■ 岩井茂雄 教授

講師：第39回セメント系固化材セミナー 浅層改良—考え方と適用方法—／(社)セメント協会 2006.3.7

講師：環境舗装研修 透水性舗装でアメニティ向上／(財)全国建設研修センター 2006.4.24

■ 高田邦道 教授

セミナー：みんなで考える交通バリアフリー空間 ～わが国の道路への適用を考える『バリアフリーを必要とする社会？』／平成18年度日本大学春期公開講座 日本大学総合生涯学

習センター 2006.6.14

セミナー：わが国の駐車対策と駐車取締りについて／平成18年度都市計画研修会（社）駐車場工学研究会 野口英世記念会館 2006.8.25

講演：バリアフリーを必要とする社会？ —これからの道路政策においてバリアフリーをどう捉えるか？—／『人口減少・高齢化社会における道路に関する研究』会議講演（財）道路経済研究所、(財)道路経済研究所会議室 2006.9.26

講演：交通総論（患者通院動態）について／日本大学医学部付属光が丘病院勉強会 2006.10.16

シンポジウム：シンポジウムのまとめと将来への課題／日本交通政策研究会シンポジウム『物流マネジメント実現のために、何をすべきか』 日本大学理工学部CSTホール 2006.12.6

講演：新教員組織移行について／平成18年度日本大学人事関係事務研修会 日本大学会館大講堂 2006.12.7

セミナー：自治体向け交通安全対策支援システム —市川・鎌ヶ谷・白井3市合同による新たな交通安全対策公開意見交換会 市川市役所会議室 2006.12.22

講演：道路交通法改正に伴う駐車実態の変化／平成18年度千葉県UTMS推進連絡協議会 千葉県警察本部会議室 2007.1.30

■ 轟 朝幸 教授

座長：ATRS 2006, Nagoya / Air Transport Research Society / 2006.5

パネリスト：シンポジウム「空港からみえる沖縄の未来」／那覇空港調査連絡調整会議／2006.9

座長：第34回土木計画学研究発表会／土木学会／2006.12

■ 福田 敦 教授

講師：JABEE主催新人研修会／(社)土木学会・技術者教育プログラム審査委員会 2006.3

講演：研究調査報告会／(財)国際交通安全学会 2006.4

講師：JABEEによる教育プログラム認定・審査のための「土木および土木関連分野」／「環境工学およびその関連分野」受審校研修会 (社)土木学会・技術者教育プログラム審査委員会 2006.5

講演・司会：the International Conference on Road Safety in Developing Countries / Bangladesh University of Engineering and Technology, Dhaka, Bangladesh 2006.8

講演：クローズ・ワークショップ「タイ王国 円借款の環境改善効果評価のための委託調査」／国際協力銀行・タイ運輸省 2006.9

司会：International Symposium on Lowland Technology / 佐賀大学低平地研究センター 2006.9

講師：JICA 集団研修「総合都市交通計画プロジェクト」／(独)国際協力機構 2006.10

司会：第8回アセアン都市交通セミナー「政府報告」／アセアン事務局・国土交通省・愛知県・名古屋市 2006.11

講演：Road Safety Seminar「Introduction of Alternative Approach for Road Traffic Accident Data Collection to Thai Communities」／タイ運輸省 2006.11

講演・パネルディスカッションパネラー：the 3rd National Transport Conference / タイ運輸省・タイ工学会・コンケン大学 2006.11

講師：Current Situation of Road Traffic Accident and Traffic Safety Education in JAPAN / コンケン大学 2005.11

司会：第34回土木計画学研究発表会（秋大会）/ (社)土木学会 2006.12

■ 藤井敬宏 教授

講演：「改正道路交通法」について / タイム24主催 パレスホテル 2006.6.

公開講座：交通バリアフリー基本構想のイロハ / 日本大学総合学習講座「みんなで考える交通バリアフリー空間～わが国の道路への適用を考える～」 日本大学通信教育学部 2006.7

出張講座：ビオトープってなんだろう？ / 土木学会生涯学習プログラム 神奈川県茅ヶ崎市浜須賀小学校 2006.7

パネラー：下田の交通の特徴とこれからの考え方 / 下田市まちづくりシンポジウム 下田市文化会館 2006.7

講演：Intelligent Transport System in JAPAN / ヴェトナムハノイ建築大学 2006.9

出張講義：都市の交通環境を考えるー交通渋滞・交通事故・交通公害ー 千葉県船橋東高等学校 2006.11

報告：狛江市の交通改善計画について 狛江市まちづくり市民会議 2007.3

講演：福祉交通の現状と課題 / 市原市 2007.3

■ 巻内勝彦 教授

座長：第21回ジオシンセティックスシンポジウム 2006.12

■ 柳沼善明 教授

司会：第15回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム / (社)プレストレストコンクリート技術協会 2006.10

■ 吉川勝秀 教授

基調講演：自然と共生する流域圏・都市づくり / 第7回荒川流域上下流交流シンポジウム 森・川・海をつなぐ環境再生荒川流域水環境シンポジウム実行委員会主催 2006.8.5

開催あいさつ、基調講演「On Flood Damage Mitigation in the Basin of Gently-Flowing Rivers on Low-Lying Plains」：流域水政策シナリオに関するタイ・中国・日本国際ワークショップ / 科学技術振興機構（土木研究所・日本大学水環境システム研究室）主催、タイ国王立かんがい局・水資源局・

公共事業・都市・地方計画局・気象庁・バンコク首都圏庁・タイ国環境工学協会・ASDECON後援 タイ国バンコク首都圏で開催（Symposium on Current Policy and Directions on Flood Damage Mitigation） 2006.10.14

司会・進行：国際舟運シンポジウム ―河川・運河を利用した都市再生― / NPO都市環境研究会主催（財）リバーフロント整備センター・NPO日本水フォーラム共催 2006.11.2

講演：世界の道路撤去・川の再生プロジェクトー韓国ソウルの事例等から日本橋川を考える / 建設三水会月例会 2006.11.15

講演：鬼怒川・小貝川における『水害の歴史と対策』 / 「小貝川大水害から20周年記念講演会」 鬼怒川・小貝川を語る会・鬼怒川・小貝川サミット会議主催 茨城県筑西市で開催 2006.11.13

講演・総合討論司会・進行：鬼怒川・小貝川の変遷と現状（特に鮭回帰）について / 「Welcome サーモン at 筑西」 下館紫水ロータリークラブ主催 筑西市・国土交通省下館河川事務所・NPO小貝川プロジェクト21・NPO川での福祉・医療・教育研究所共催 2007.2.18

■ 小早川 悟 専任講師

座長：環境・公害 / 土木学会平成18年度全国大会Ⅳ部司会（Ⅳ-106～Ⅳ-113） 立命館大学びわこ・くさつキャンパス 2006.9.20

■ 安井一彦 専任講師

講師：交通技術必携講習会講師（5章交通管理） / (財)建設物価調査会 2006.10.20、25

■ 江守 央 助手

講師：国土交通省中部地方整備局 環境・景観デザイン研修 / 「美しい国づくりのための景観設計基礎研修」 2006.6.15

コーディネータ：交通エコロジー・モビリティ財団主催「アジアセミナー；交通のバリアフリー化に向けたアジアの取り組み」 / テーマ別会議「日本の障害者運動と移動のバリアフリー化」 2006.2.28

司会：土木学会 平成18年度 全国大会 セッション「バリアフリー」 2006.9.22

■ 峯岸邦夫 助手

副座長：第21回ジオシンセティックスシンポジウム 2006.12

座長：第33回土木学会関東支部技術研究発表会第Ⅲ部門 2006.3

海外出張

教員名	出張期間 / 出張目的 / 訪問国
天野光一教授	2006年 8月24～9月24日 / 地方都市における交通と都市景観、都市観光に関する調査研究 / イギリス、フランス、ドイツ 2006年11月21～25日 / REAAA 会議参加 / フィリピン
伊東 孝教授	2006年 3月 3日～12日 / アジアの文化遺産保護関連機関に関する資料収集と打ち合わせ / ベトナム、カンボジア 2006年 3月12日～22日 / カンボジアのアンコール王国時代の王道と橋梁と駅舎に関する調査研究 / ベトナム、カンボジア 2006年 8月11日～22日 / ロシア・サンクトペテルブルクの橋梁調査とクロムシュタットの要塞調査 / ロシア・

サンクトペテルブルク

轟 朝幸教授	2006年 8月23日～9月 5日／社会交通工学科学学生海外研修旅行引率／フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク、ドイツ
福田 敦教授	2006年 1月22日～26日／85th Transportation Research Board／米国 2006年 9月18日～20日／国際協力銀行・タイ運輸省、the International Conference on Road Safety in Developing Countries／バングラディシュ 2006年 9月18日～20日／(財)国際交通安全学会、クローズ・ワークショップ「タイ王国 円借款の環境改善効果評価のための委託調査」／タイ 2006年11月21日～27日／タイ運輸省・タイ工学会・コンケン大学、The 3rd National Transport Conference／タイ
吉川勝秀教授	2006年10月13日～15日／日本、タイ、中国国際ワークショップ 人口急増地域の水政策シナリオ研究／タイ 2006年12月23日～31日／アメリカにおける流域圏・水辺再生、道路撤去等調査／ボストン、サンアントニオ、ロサンゼルス
小早川悟専任講師	2005年 8月20日～平成18年 8月10日／日本大学海外派遣研究員／イギリス（リーズ大学）
安井一彦専任講師	2006年12月21日～26日／交通安全施設の実態調査／瀋陽市（中華人民共和国）
伊東英幸助手	2006年9月12日～16日 （社）日本港湾協会委託研究費、港湾における規制緩和についての研究／米国 2006年9月16日～21日 文部科学省科学研究費、わが国における環境補償制度の促進方策に関する研究／米国
岸上明子助手	2006年 3月 6日～19日／PCM手法を用いたコミュニティレベルでの防災計画に関する研究／フィリピン 2006年11月18日～26日／地域開発プロジェクトについての現地調査／カンボジア 2006年12月 5日～ 9日／PCM手法を用いたコミュニティレベルでの防災計画に関する研究／フィリピン
峯岸邦夫助手	2006年11月 4日～10日／第 8 回コンクリートブロック舗装に関する国際会議参加のため／アメリカ合衆国サンフランシスコ

助成研究 委託研究

助成金名・委託元など（研究期間）

研究課題

教員名

日本大学学術研究助成金	
日本大学／わが国の美しい国土づくりに向けた景観法運用の課題と促進方策に関する研究……………	天野光一教授 他 3 名
(社)日本鉄鋼連盟（2006.10～2007.3）	
小型車専用立体交差導入に関する研究……………	福田 敦教授
(株)福山コンサルタント（2005.11～2006.3、2006.11～2007.3）	
大都市交通問題対策検討に関する調査研究……………	福田 敦教授（研究代表）
(財)国土技術研究センター（2005.10～2006.3）	
シミュレーションソフトを活用した総合的な道路交通環境改善施策の評価……………	福田 敦教授（研究代表）
(財)国際交通安全学会（2005.4～2006.3、2006.4～2007.3）	
交通安全教育の手法と評価法の研究（Project H743A, H852A）……………	福田 敦教授 他 4 名
(財)国際交通安全学会（2005.4～2006.3、2006.4～2007.3）	
エコロジカルな交通システムの開発途上国への普及方策（Project H745, H854）……………	福田 敦教授 他 3 名
(財)国際交通安全学会（2005.4～2006.3、2006.4～2007.3）	
タイにおける交通安全施策への支援（Project H749, H857）……………	福田 敦教授（研究代表）
日本工営株式会社（2005.4～2006.3）	
タイにおける ITS の展開可能性に関する研究……………	福田 敦教授（研究代表）
株式会社日本工業試験所より研究奨励寄付金……………	星埜正明教授
新日石プラスト(株)（2006.4.1～2007.3.31）	
粒状材に対する強化不織布の耐久性能評価に関する研究……………	巻内勝彦教授
NUBIC 受託研究 イビデン(株)（2006.7.1～2007.3.31）	
斜面緑化用短繊維補強土の力学的安定性に関する研究……………	巻内勝彦教授・峯岸邦夫助手
科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業（JST／CTEST）（2003～）	
人口急増地域の持続的な流域水政策シナリオ研究……………	吉川勝秀教授

奨励寄付金（リバーフロント整備センター）（2005～）
 自然共生型流域圏・都市再生に関する研究…………… 吉川勝秀教授

法政大学学術フロンティア（2004～）
 「都市における水辺空間の再生に関する研究」（研究メンバー）…………… 吉川勝秀教授

科学研究費補助金（2006.4～2009.3）
 路上駐車による交通混雑の社会的費用測定と交通政策に関する学際的研究…………… 轟 朝幸助教授（研究分担）

科学研究費補助金（2006.4～2009.3）
 日本における航空ネットワークの再編成と空港の効率的運用…………… 轟 朝幸助教授（研究分担）

日本大学理工学部情報教育研究センター重点開発研究（2006年～2008年）
 e-learning system を併せ持つ公務員試験対策データベース教育システムの開発
 ……中山晴幸教授、伊藤洋一教授（電気工学科）、泉 隆教授（電子情報工学科）、鎌尾彰司専任講師（土木工学科）

(社)日本港湾協会委託研究費（2006.3～2007.3）
 港湾における規制緩和についての研究…………… 伊東英幸助手 他 2 名

文部科学省科学研究費（2006.4～2008.3）
 わが国における環境補償制度の促進方策に関する研究…………… 伊東英幸助手 他 2 名

住友電気工業㈱（2006.11.1～2007.3.31）
 テーマ名非公開…………… 安井一彦専任講師

科学研究費補助金 若手研究（B）（2006.4～2007.3）
 PCM手法を用いたコミュニティレベルでの防災計画に関する研究…………… 岸上明子助手

学術研究助成金〔一般研究（個人）〕（2006.4～2007.3）
 地方公共団体の景観形成にみる方向性と都道府県の景観マスタープランにみる客観性・具体性についての基礎的研究
 …………… 岸上明子助手

受賞

賞（受賞年月）	教員名
The 3rd National Transport ConferenceにてExcellent Practice Paper Award受賞（2006.11）	福田 敦教授 他
第61回土木学会年次学術講演会 優秀賞／「都市河川における水辺空間の利用に関する一考察」 第61回土木学会年次学術講演会概要集 pp. 41-42	吉川勝秀教授 他
ポケット・ローディング・システムの実施可能性についての調査研究 第20回交通工学研究会論文賞 (社)交通工学研究会（2006.5.25）	小早川悟専任講師、高田邦道教授 他
(社)交通工学研究会 第26回交通工学研究論文発表会 研究奨励賞・安全の泉賞（2006.11）／クリアランス時間の適正化に伴う車両挙動の変化に関する研究	安井一彦専任講師 他
(社)交通工学研究会 第26回交通工学研究論文発表会 研究奨励賞（2006.11）／歩行者感応制御の高度化実証実験	安井一彦専任講師 他

平成18年度 学生の活動 2006. 1. 1～2007. 3. 31

主催者（受賞年月）／賞などの内容	受賞者氏名
(社)土木学会東北支部、(社)土木学会景観・デザイン委員会、(社)東北建設協会主催（2006年11月3日）／2006年「景観開花」土木デザイン設計競技 佳作 ヨシモトポール賞（特別賞）	加藤雪子（交通景観研究室）
2006年第1回土木計画学公共政策デザインコンペ応募作品 「バンコク防災都市構想 豊かな水辺空間を継続した防災ウォーターフロント都市の提案」	大島淳之（デザイン研究室）
2006年第1回土木計画学公共政策デザインコンペ応募作品 「東京湾防災都市壁構想」	則本弘明（デザイン研究室）
(社)土木学会東北支部、(社)土木学会景観・デザイン委員会、(社)東北建設協会主催（2006年11月3日）／2006年「景観開花」土木デザイン設計競技 テーマ「川」 佳作	大島淳之、土川泰明（デザイン研究室）
(社)土木学会東北支部、(社)土木学会景観・デザイン委員会、(社)東北建設協会主催（2006年11月3日）／2006年「景観開花」土木デザイン設計競技 テーマ「川」 佳作	下田明広、小津野勝也、加藤雪子（デザイン研究室）
高速道路品川線問題近隣町会合同連絡会主催（2006年11月5日）／「五反田無公害道路コンペ」最優秀賞	大島淳之、横井亮太（デザイン研究室）

高速道路品川線問題近隣町会合同連絡会主催（2006年11月5日）／「五反田無公害道路コンペ」入選
大島淳之、小林雅美、田中大樹、米屋貴博（デザイン研究室）

（社）土木学会（2006年5月19日）／第33回土木学会関東支部技術研究発表会優秀発表賞神辺晴美（都市環境計画研究室）

「第5回3D・VRシミュレーションコンテスト」にて「国際通りトランジットモールの風景比較用VRシミュレーション」がエッセンス賞を受賞（2006年11月）清水駿太（交通システム研究室）

（社）土木学会土木計画学研究委員会（2006.6）／第1回土木計画学公共政策学デザインコンペ 優秀賞受賞 作品名「日本橋学生工房～学生による日本橋まちづくりへの提言とその成果～」石坂哲宏、室井寿明・伊藤香苗 他21名（交通システム研究室）

財団法人国際交通安全学会（IATSS）主催（2006年5月～11月）／交通研究国際学生シンポジウム（ISSOT）の学生代表活動
大島良輔（交通システム研究室）

国土交通省関東地方整備局東京国道事務所日本橋学生工房第五期活動への参加（2006年7月～2007年3月）
日本橋学生工房 参加 伊藤香苗、金子翔一（交通システム研究室）

国際舟運シンポジウム ―河川・運河を利用した都市再生―（2006年11月2日）および併開催の「東京の水辺再生プロジェクト」への参加
（水環境システム研究室）

京都・大阪の河川・水辺再生・舟運調査（2006年9月4日～6日）（水環境システム研究室）

平成18年度 行事報告

卒業研究発表会

平成18年度の卒業研究発表会を、2月23日(土)に、14号館3階1431～1434の4教室で開催しました。今年度の卒業研究着手者は126名で、発表件数は、101件(昨年は110件)でした。会場には、4年生、3年生、大学院生の他に、ご父母も多数出席されました。発表時間8分、質疑時間4分と1年間の集大成を発表するには短い時間でしたが、先生方からも多くの質問があり、白熱した議論がなされ、大変充実した発表会となりました。

4年担任 巻内・福田



卒業研究発表会の発表風景

修士論文審査会

大学院前期課程の修士論文審査会が、平成19年2月28日(水)9

時30分から17時まで船橋校舎14号館1432教室で行われました。発表件数は24件で、前期課程の2年生全員が発表しました。発表時間は15分（発表10分、質疑応答5分）でした。大学院生は、論文要旨（4ページ）とパワーポイントにより、大学院2年間の研究成果を、持ち時間内にわかりやすく発表していました。先生方の質問に、適切な回答や、中にはちょっとかみ合わない回答もありましたが、先生方に概ねこれまでの研究成果を理解していただいたようです。指導教授と発表件数は、高田先生3件、藤井先生5件、轟先生5件、福田先生4件、伊東先生3件、岩井先生、下辺先生、星埜先生、柳沼各1件でした。後期課程では、2名の博士論文公聴会（平成19年1月29日）が行われ、無事に終了しました。

大学院2年生担任 柳沼

修士論文審査会の発表風景



社会交通工学科協議会について

伊澤 岬 教授

平成4年より本学科（当時交通土木工学科）では社会的外部評価の一環として卒業生ならびに学識経験者等からなる協議会を設置しています。具体的には本学科の教育方針ならびに社会の要求などへの対応について学生オブザーバーも加わって議論しています。今回は平成19年3月6日（火）にホテルイースト21にて行われ、出席者として協議員8名（学科内委員2名含む）オブザーバーとして学科教職員13名（在校生代表1名含む）が参加し、学科の状況、入試情報、就職状況、JABEE申請についての議題で話し合いが行われました。本年度はJABEE申請にあたり、その位置づけをさらに明確化し協議会自体の点検システムを強化するべく、各協議委員には書面にてその改善内容を提出する仕組みとして今後の学科の教育改善に活かすこととなりました。また少子化に伴う、厳しい大学運営状況の中での学科としての特色、あるいは対応をどのようにして行っていくかに



協議会の様子

ついて貴重なご意見を協議委員からはいただき、今後の学科運営を考える上で重要な議論が行われました。

学位伝達式

日本大学卒業式が、例年通り3月25日（日）武道館で行われました。その後、日本大学大学院理工学研究科としての学位伝達式が駿河台1号館CSTホールで行われました。さらに、会場を、新宿にあるヒルトン東京に移し、社会交通工学科ならびに社会交通工学専攻大学院の学位伝達式が行われました。

学位伝達式では天野主任から、旅立ちに向けて挨拶をいただいた後、大学院修了生と学部卒業生に学位記が手渡されました。今年度の大学院修了生は、博士後期過程が2名、博士前期課程が24名で、学部の卒業生は123名でした。

学位伝達式終了後は、卒業生・修了生主催による謝恩会が催され、名残惜しい一時を過ごしました。

大学院2年生担任 柳沼、学部4年生担任 巻内・福田



学位伝達式（学位記授与）

平成18年度 就職状況

平成18年度4年生担任 巻内勝彦・福田 敦

平成19年3月15日現在の平成18年度理工学部社会交通工学科卒業予定者数、および大学院理工学研究科社会交通工学専攻修了予定者の就職状況について、ご報告いたします。学部卒業予定者は123名、大学院修了予定者は26名です。学部生では進学18名、次年度就職予定者12名を除く、就職希望者93名中91名が就職し、就職内定率は98%となっております。また、大学院生では次年度就職予定3名を除く、就職希望者23名中23名が就職し、就職内定率は100%です。

今年度の就職内定先の業種の特徴として、公務員合格者が学部生6名、大学院生4名と昨年度より増加（昨年度実績：学部生5名、大学院生1名）しました。鉄道関係においては学

部生が5名、大学院生1名と例年より若干内定者が減少しています。また、情報・ソフトは若干内定者が減少したものの、物流関係は学部生26名、大学院生2名と内定者数が大幅に増加しています。本学科・専攻では、学生の就職活動の支援のため、下記のようなことを行っています。

1. 就職懇談会（毎年10～11月頃、大学キャンパス内で実施）
 - ・次年度就職希望する学部3年生および過年度生、大学院M1が主な対象
 - ・担任および交通OBによる就職の全体説明、交通OB・OGによる業種別の説明会
 - ・業種別エリアでの個別相談および懇親会

2. NU就職ナビを利用した求人情報の公開

- ・最新の求人情報（業種全体、業種別）をリアルタイムで更新・掲載
- ・随時、教員や学生が所定のIDおよびパスワードで閲覧可能

3. 学科HP（ホームページ）を利用した求人情報の公開

- ・従来の学科事務室を通した求人情報の掲示・閲覧過程を迅速・簡素化
- ・最新の求人情報（業種全体、業種別）をリアルタイムで更新・掲載
- ・随時、教員や学生が所定のIDおよびパスワードで閲

覧可能

4. 同HPを利用した公務員志望者の交流会窓口の設置

- ・情報交換の場の設置
- ・勉強会の啓発および実施

5. 担任および指導教授による個別相談

- ・学部、大学院クラス担任およびゼミナール、卒業研究、修士論文の指導教授による個別相談ならびに調整

6. その他

- ・交通同窓会「わだちの会」による就職応援ミーティング（2件）

本学科卒業生の業種別就職状況

平成19年3月15日現在

業種	卒業年度		S50～S59		S60～H6		H7～H11		H12		H13		H14		H15		H16		H17		H18	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
公務員			235	215	74	23	9	4	10	2	10	2	4	4	11	5	5	1	6	4		
公社・公団			20	33	4	6	0	3	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1		
建設業			547	435	215	15	16	5	27	1	27	2	8	3	12	2	12	5	11	1		
コンサルタント			236	271	163	36	9	3	7	2	8	2	6	4	7	3	8	4	7	5		
情報・ソフト			0	60	46	8	34	2	29	1	31	1	13	4	21	1	14	0	11	1		
運輸	鉄道		42	23	5	8	0	0	2	0	2	0	5	1	4	0	10	0	5	1		
	物流		72	71	21	2	7	1	17	1	17	1	14	0	13	3	18	0	26	2		
製造	橋梁・金属		0	11	5	2	0	0	2	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	1		
	材料		0	6	8	2	2	0	3	0	4	0	0	1	3	0	1	0	0	0		
	交通関係		0	29	16	5	2	4	1	2	1	2	1	2	1	0	1	1	5	1		
不動産			18	17	8	0	3	0	5	1	5	1	7	2	1	1	3	0	4	1		
保険・金融			0	7	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	1	1	2	0		
学校			20	28	2	2	4	0	8	3	9	3	1	0	0	1	1	1	3	2		
自営			50	27	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0		
その他			178	232	47	9	15	0	6	0	4	0	7	2	31	4	11	1	14	2		
進学			80	185	147	10	17	0	21	2	22	2	27	0	22	3	21	0	18	1		
未定・不明			111	15	78	11	34	3	15	4	10	3	26	4	7	0	26	7	9	3		
卒業者数			1,609	1,665	852	139	152	25	153	19	153	19	123	27	136	24	133	21	123	26		

注) 平成15年度の未定・不明欄の学部26名のうち13名は次年度公務員試験等受験者。

平成17年度の未定・不明欄の学部26名のうち6名、および大学院7名のうち2名は次年度公務員試験等受験者。

平成18年度就職内定先一覧

平成19年3月15日現在

業種	就職先	学部 (名)	大学院 (名)
進学	日本大学大学院（社会交通工学）	13	1
	筑波大学	1	0
	横浜国立大学大学院	1	0
	神田外語大学	1	0
	日本工学院八王子専門学校	1	0
	パンタンビジュアル研究所	1	0
進学 計		18	1
公務員	愛媛県松前町役場	0	1
	香川県庁	1	0
	葛飾区役所	0	1
	埼玉県戸田市役所	1	0
	新宿区役所	1	0

業種	就職先	学部 (名)	大学院 (名)
公務員	墨田区役所	0	1
	千葉県警察	1	0
	千葉県庁	2	0
	横浜市	0	1
公務員 計		6	4
公社・公団	東京都新都市建設公社	0	1
公社・公団 計		0	1
建設業	NIPPO コーポレーション	1	0
	江田組	1	0
	共和化工	1	0
	熊谷組	1	0
	ケイミックス	1	0

業種	就職先	学部 (名)	大学院 (名)
建設業	ケンテック	1	0
	鈴木組	1	0
	スターツコーポレーション	1	0
	第一建設工業	1	0
	東鉄工業	0	1
	ヒロセ	1	0
	前田道路	1	0
	岡三リビック	1	0
建設業 計		12	1
コンサルタント	JR東日本コンサルタンツ	0	2
	オリエンタルコンサルタンツ	0	1
	国際航業	1	0
	昭和	1	0
	施工技術研究所	1	0
	セントラルコンサルタンツ	0	1
	鉄道情報システム	1	0
	ドーンデザイン研究所	1	0
	ライテック	1	1
	りんかい日産建設	1	0
コンサルタント 計		7	5
物流	A N A	1	0
	DHL ジャパン	1	0
	JAL カーゴサービス	0	1
	NEC ロジスティックス	1	0
	住友金属物流	1	0
	センコー	2	0
	第一貨物	1	0
	東芝物流	1	0
	東部バスセントラル	1	0
	日本通運	3	1
	日本ロジスティック	1	0
	日立物流	1	0
	富士物流	2	0
	三菱電機ロジスティックス	2	0
	ヤマト運輸	2	0
	リコーロジスティックス	6	0
物流 計		26	2
情報・ソフト	CIT	1	0
	NTT データシステム技術	1	0
	伊藤忠テクノソリューションズ	1	0
	サイバーエイジェント	1	0
	三和コンピュータ	1	0
	情報技術開発	1	0
	東横システム	0	1
	日本情報産業	1	0
	ノアシシステム	1	0
	フォーカスシステムズ	1	0
	フォーラムエイト	1	0
	富士通エフ・アイ・ピー	1	0
情報・ソフト 計		11	1

業種	就職先	学部 (名)	大学院 (名)
不動産	サクセス・プロ	1	0
	大和ハウス工業	1	0
	扶桑レクセル	1	0
	三井不動産販売	1	0
	安田倉庫	0	1
不動産 計		4	1
鉄道	東海旅客鉄道	1	0
	東京地下鉄	2	0
	日本貨物鉄道	1	0
	東日本旅客鉄道	0	1
	北陸鉄道	1	0
鉄道 計		5	1
保険・金融	千葉銀行	1	0
	三島信用金庫	1	0
保険・金融 計		2	0
製造・建材	京三製作所	0	1
	交通システム電機	1	0
	ザナヴィ・インフォマティックス	1	0
	土井製作所	1	0
	日信電子サービス	1	0
	日本信号	1	0
	日本鑄造	0	1
	東鉄工業	1	0
製造・建材 計		6	2
学校	コンケン大学	0	1
	埼玉県（臨時教員）	1	0
	日本公文教育研究会	1	0
	日本大学理工学部社会交通工学科(助手)	0	1
	理工学部研究生	1	0
学校 計		3	2
	NHK 千葉放送局	1	0
	イオンモール	1	0
	イワサ商事	1	0
	ケイヨウ	1	0
	ドコモ・サービス	1	0
	トヨタレンタリース	1	0
	日本総合住生活	1	0
	パーク24	2	0
	日構シーセスエス	1	0
	来年度公務員受験予定	4	2
その他 計		14	2
未定・不明	不明	9	3
総計		123	26

7214 号室

教室事務室

越川 静子

〒 274-8501 千葉県船橋市習志野台 7-24-1

Tel. 047-469-5239 Fax. 047-469-2581

<http://www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp>

